

I 岡山県における地域がん登録の概要

1. 目的

地域がん登録は、対象地域（ここでは岡山県全域）の居住者に発生した全てのがんについて、発症から治療、死亡に至るまでの経過に関する情報を収集し、その情報をもとに次の諸活動を行い、がん予防の推進、がん医療の向上に役立てることを目的としている。

- ① がん罹患率の計測
- ② がん患者の受療状況の把握
- ③ がん患者の生存率の計測
- ④ がん予防、医療活動の企画、評価
- ⑤ 医療機関における対がん活動の支援のための情報サービス
- ⑥ 疫学研究への活用

2. 登録方法

岡山県がん登録室（岡山大学病院内。以下「本登録室」という）では、がん患者登録は岡山県内及び全国の医療機関からの「岡山県がん登録届出票」または「電子媒体」による届出を整理し、患者毎にID番号をつけることによって行っている。

さらに、人口動態調査死亡票（以下「死亡票」という）による死亡情報と照合し、未登録患者については補充調査（医療機関への照会）を行うとともに、新たなID番号をつけて登録管理する。ただし、1人の患者に独立して発生した複数の腫瘍（多重がん）はそれぞれを別のがんとして集計するため、これについては同じIDの別データとして取り扱っている。

3. 集計対象

本報告の罹患集計対象は、岡山県の居住者（外国人を含む）で2014年1月1日から12月31日までの間に初めてがんと診断された者とした。死亡票のみで登録した患者については、「死亡年月日」を「診断年月日」として、集計に加えた。

4. 人口および標準人口

罹患率の計算には2014年の岡山県毎月人口流動調査における人口、死亡率の計算には2010年と2015年の国勢調査による岡山県推計人口を用いた。

年齢調整罹患率及び年齢調整死亡率の算出には1985年日本人モデル人口を用いた。

5. 部位分類

がん原発部位の分類は国際疾病分類第10回修正（ICD-10）により、また組織型の分類は国際疾病分類－腫瘍学第3版（ICD-O-3）により行っている。

6. 登録の分析

（1）岡山県の登録精度

1993年以降のDCN割合・DCO割合・IM比の推移を示した（表1）。

DCO割合は、全がん登録対象となった1996年以降から10%を下回り、更にはがん診療連携拠点病院で院内がん登録が義務化されたことに伴い、届出数は増加傾向にあり、がん登録の精度指数であるDCN、DCO、IM比の一段の改善も見られている。

	届出による	DCN数	DCO数	罹患数(I)	DCN割合	DCO割合	死亡数※	IM比
	登録数(R)							
1993	4,269	980	497	4,766	20.6%	10.4%	2,097	2.27
1994	4,124	1,048	702	4,826	21.7%	14.5%	2,208	2.19
1995	4,208	1,052	938	5,146	20.4%	18.2%	2,269	2.27
1996	8,169	1,741	805	8,974	19.4%	9.0%	4,489	2.00
1997	8,208	1,728	731	8,939	19.3%	8.2%	4,416	2.02
1998	8,154	1,509	790	8,944	16.9%	8.8%	4,683	1.91
1999	8,180	1,564	833	9,013	17.4%	9.2%	4,745	1.90
2000	8,512	1,684	699	9,211	18.3%	7.6%	4,778	1.93
2001	8,602	1,796	712	9,314	19.3%	7.6%	5,022	1.85
2002	9,189	1,774	781	9,970	17.8%	7.8%	5,222	1.91
2003	9,439	1,719	744	10,183	16.9%	7.3%	5,266	1.93
2004	9,040	1,896	772	9,812	19.3%	7.9%	5,354	1.83
2005	9,355	2,029	758	10,113	20.1%	7.5%	5,317	1.90
2006	8,985	1,995	858	9,843	20.3%	8.7%	5,344	1.84
2007	10,291	2,167	645	10,936	19.8%	5.9%	5,129	2.13
2008	11,082	2,064	669	11,751	17.6%	5.7%	5,668	2.07
2009	12,464	1,492	486	12,950	11.5%	3.8%	5,642	2.30
2010	13,052	1,131	362	13,414	8.4%	2.7%	5,537	2.42
2011	13,404	1,121	423	13,827	8.1%	3.1%	5,883	2.35
2012	14,075	1,184	513	14,588	8.1%	3.5%	6,075	2.40
2013	14,700	1,057	237	14,937	7.1%	1.6%	5,978	2.50
2014	15,063	1,024	283	15,346	6.7%	1.8%	6,244	2.46

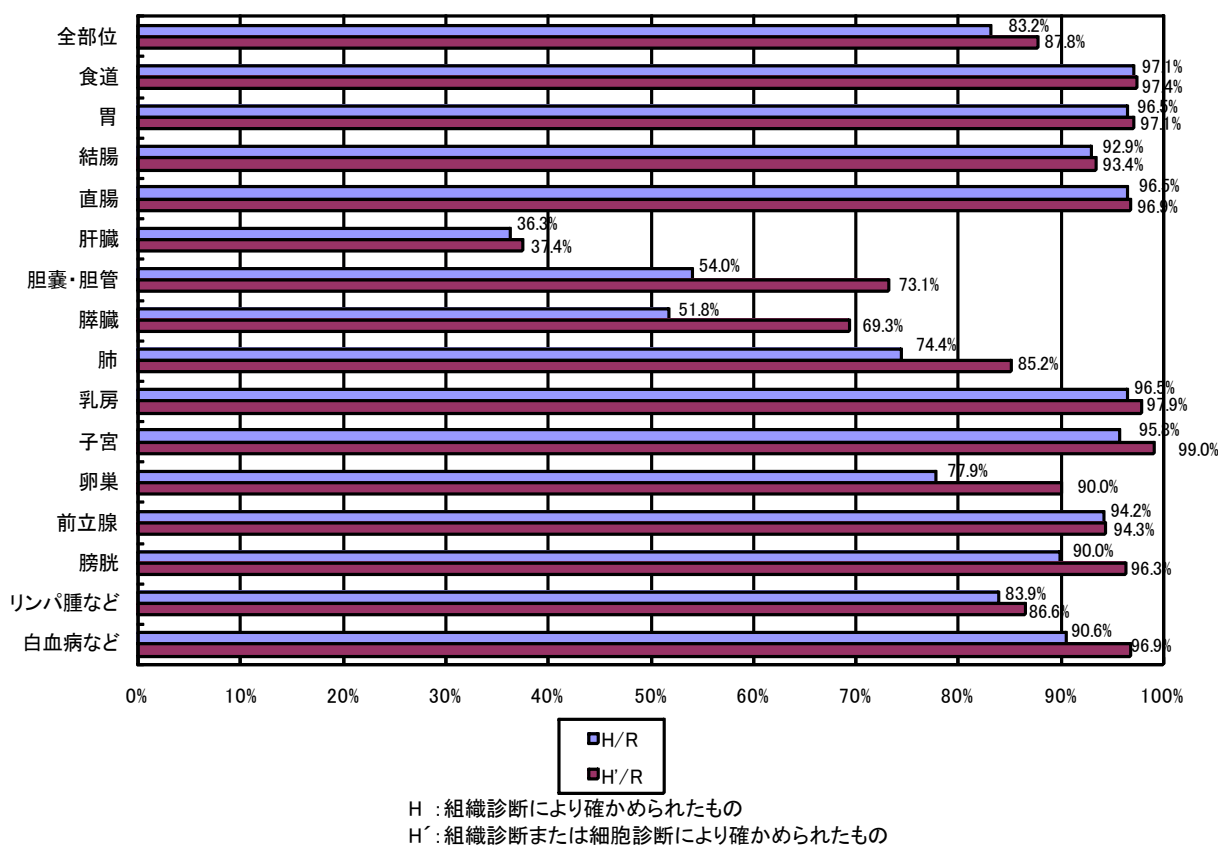
1993-1995年は胃、結腸、直腸、肺、乳房、子宮の6部位を対象とした。
死亡数※: 死亡票上にがんや腫瘍の記載があったものの数(外国人を含む)。

(2) 診断の精度

組織診断実施率は、把握されたがんのうち組織診断により診断されたものの割合で、診断の精度を示す指標としてがん登録で幅広く利用されている[注：臓器（肝臓、膵臓など）によっては必ずしも確定診断手技として実施されない]。他の指標としては顕微鏡学的診断実施率、すなわち組織診断または細胞診断により顕微鏡的に確かめられた患者の割合が用いられる。

図1では2014年の届出によって登録された罹患数（R）に対する診断精度を示した。肝臓、膵臓などは画像診断などによる診断が一般的で、組織診断率（H/R）は低率であった。顕微鏡学的診断実施率（H'/R）は子宮が最も高く、次いで乳房、食道、胃であった。

図1 届出登録罹患患者数に対する組織診断実施率



II がんの罹患状況

1. 罹患数、粗罹患率、年齢調整罹患率及び罹患割合（主要部位別、男女別）

2014年のがん罹患数、粗罹患率及び年齢調整罹患率、罹患割合を、主要部位別、男女別に示した（表2）。

全がん罹患数は、男8,825、女6,519、計15,344人であった。人口10万人当たりの粗罹患率は男955.5、女651.3、日本人モデル人口による年齢調整罹患率は、男486.1、女358.4であった。

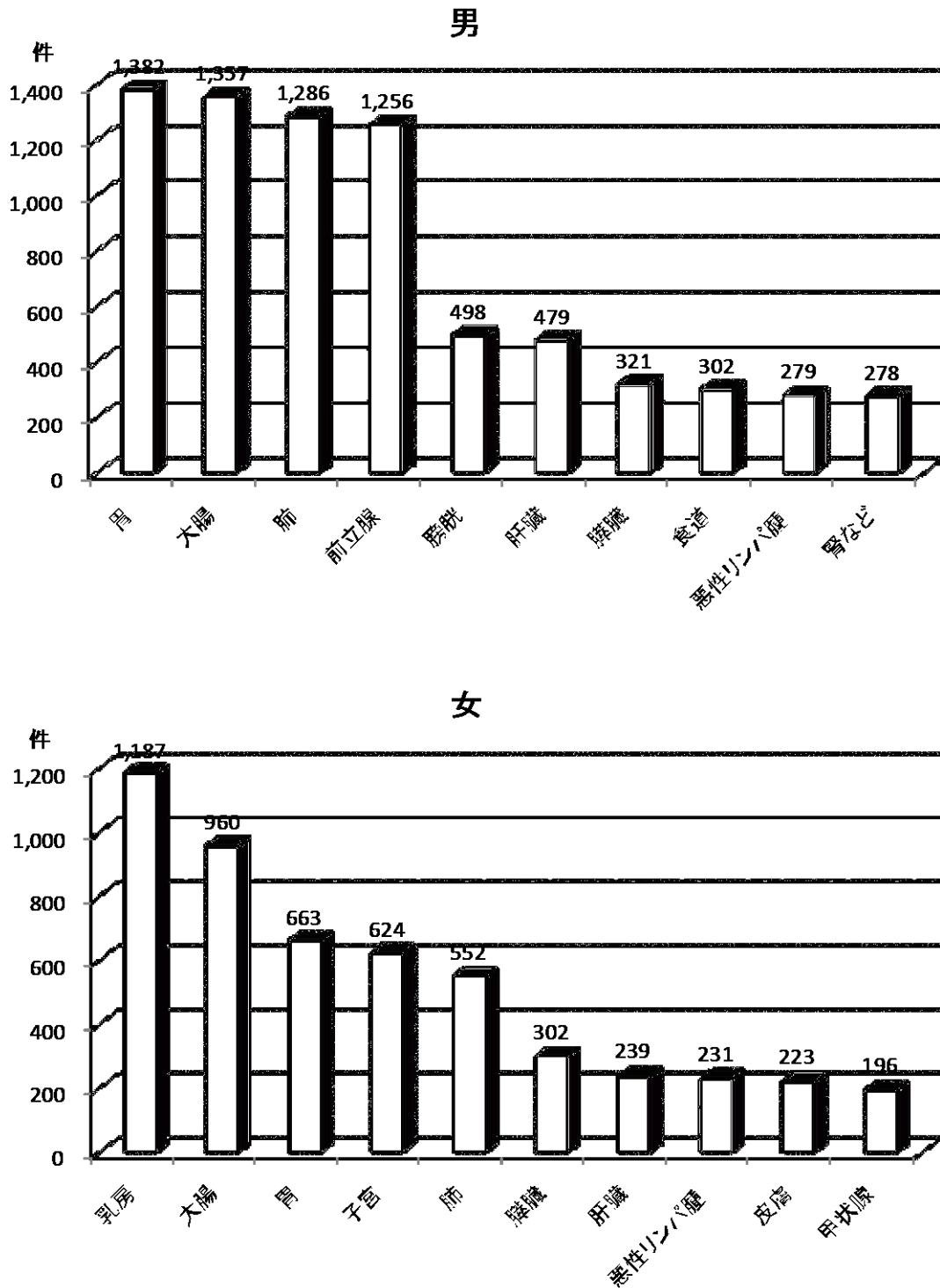
男については粗罹患率の1位は胃、2位は大腸（以下、大腸とは結腸と直腸を合わせた症例とする）、年齢調整罹患率の1位は大腸、2位は胃となっており、消化器系のがんの罹患率が高くなっている。

女については粗罹患率、年齢調整罹患率ともに乳房が1位、2位は粗罹患率では大腸、年齢調整罹患率では子宮となっており、女性特有のがんの罹患率が高くなっている。

部位	罹患数			粗罹患率 (人口10万対)		年齢調整罹患率 日本人人口 ^(*)		罹患割合 (部位/全部位)	
	男	女	計	男	女	男	女	男	女
								男	女
全部位	8,825	6,519	15,344	955.5	651.3	486.1	358.4	100.0%	100.0%
口腔・咽頭	223	109	332	24.1	10.9	13.3	5.0	2.5%	1.7%
食道	302	57	359	32.7	5.7	17.4	2.5	3.4%	0.9%
胃	1,382	663	2,045	149.6	66.2	72.1	27.3	15.7%	10.2%
大腸	1,357	960	2,317	146.9	95.9	79.7	44.2	15.4%	14.7%
┌ 結腸	827	652	1,479	89.5	65.1	47.5	28.6	9.4%	10.0%
└ 直腸	530	308	838	57.4	30.8	32.2	15.6	6.0%	4.7%
肝臓	479	239	718	51.9	23.9	26.8	8.7	5.4%	3.7%
胆嚢・胆管	142	182	324	15.4	18.2	6.4	5.3	1.6%	2.8%
膵臓	321	302	623	34.8	30.2	17.7	11.0	3.6%	4.6%
喉頭	89	6	95	9.6	0.6	4.8	0.4	1.0%	0.1%
肺	1,286	552	1,838	139.2	55.1	66.4	23.6	14.6%	8.5%
皮膚 ^(*)	209	223	432	22.6	22.3	10.4	7.1	2.4%	3.4%
乳房	11	1,187	1,198	1.2	118.6	0.6	88.3	0.1%	18.2%
子宮	-	624	624	-	62.3	-	58.5	-	9.6%
卵巣	-	151	151	-	15.1	-	10.3	-	2.3%
前立腺	1,256	-	1,256	136.0	-	63.3	-	14.2%	-
腎など	278	131	409	30.1	13.1	16.1	6.2	3.2%	2.0%
膀胱	498	144	642	53.9	14.4	25.6	5.3	5.6%	2.2%
脳・神経系	94	143	237	10.2	14.3	7.2	8.5	1.1%	2.2%
甲状腺	69	196	265	7.5	19.6	5.8	15.0	0.8%	3.0%
悪性リンパ腫	279	231	510	30.2	23.1	16.6	11.2	3.2%	3.5%
多発性骨髄腫	64	52	116	6.9	5.2	3.1	1.8	0.7%	0.8%
白血病	102	60	162	11.0	6.0	8.5	4.0	1.2%	0.9%
日本人人口 ^(*) : 1985年日本人モデル人口									
皮膚 ^(*) : 皮膚の黒色腫を含む									

2014年における罹患数上位10部位を男女別にグラフで示した（図2）。

図2 部位別罹患数2014年（上位10部位）



2. 岡山県と全国の罹患率の比較（主要部位別、男女別）

年齢調整罹患率を岡山県（2014年、2013年値）と全国（2013年推計値）で比較した（表3、図3、4）。

2013年の岡山県の年齢調整罹患率を全国の値（日本人モデル人口）と比較すると、全部位では男は1.11、女は1.15と男女とも全国値を上回っている。

また男では膀胱（2.09）、脳・神経系（1.93）、甲状腺（1.45）、女では脳・神経系（3.43）、子宮（1.96）、膀胱（1.54）などが全国値に比べ高かった。

	年齢調整罹患率							岡山/全国 ^(*2)	
	男			女			岡山 2013	全国 ^(*2) 2013	
	岡山 2014	岡山 2013	全国 ^(*2) 2013	岡山 2014	岡山 2013	全国 ^(*2) 2013			
全部位	486.1	482.9	436.1	358.4	353.8	307.8	1.11	1.15	
口腔・咽頭	13.3	13.0	13.0	5.0	4.1	4.7	1.00	0.87	
食道	17.4	16.4	17.1	2.5	2.8	2.8	0.96	1.00	
胃	72.1	74.8	77.8	27.3	26.9	28.3	0.96	0.95	
大腸	79.7	82.4	67.7	44.2	48.5	40.6	1.22	1.20	
{ 結腸	47.5	49.7	40.9	28.6	33.2	28.0	1.21	1.18	
{ 直腸	32.2	32.8	26.7	15.6	15.4	12.6	1.23	1.22	
肝臓	26.8	26.8	23.5	8.7	8.1	8.1	1.14	1.00	
胆嚢・胆管	6.4	8.1	8.8	5.3	5.8	5.6	0.92	1.03	
膵臓	17.7	14.0	16.0	11.0	9.7	10.0	0.88	0.97	
喉頭	4.8	4.5	4.0	0.4	0.4	0.3	1.13	1.33	
肺	66.4	64.4	62.3	23.6	21.3	24.8	1.03	0.86	
皮膚 ^(*3)	10.4	10.1	8.3	7.1	7.4	5.8	1.21	1.27	
乳房	0.6	0.5	0.4	88.3	84.3	85.6	1.25	0.99	
子宮	-	-	-	58.5	57.1	29.1	-	1.96	
卵巣	-	-	-	10.3	9.1	11.4	-	0.80	
前立腺	63.3	62.4	60.7	-	-	-	1.03	-	
腎など	16.1	16.8	15.7	6.2	6.2	6.1	1.07	1.02	
膀胱	25.6	24.0	11.5	5.3	4.0	2.6	2.09	1.54	
脳・神経系	7.2	6.2	3.2	8.5	8.2	2.4	1.93	3.43	
甲状腺	5.8	7.2	5.0	15.0	19.3	13.3	1.45	1.45	
悪性リンパ腫	16.6	16.4	13.2	11.2	11.9	9.8	1.25	1.21	
多発性骨髄腫	3.1	2.8	3.1	1.8	1.8	2.0	0.91	0.91	
白血病	8.5	6.7	7.7	4.0	3.7	5.0	0.87	0.75	
日本人人口 ^(*1) : 1985年日本人モデル人口									
全国 ^(*2) : 厚生省がん対策推進総合研究事業「全国集計と資料活用によるがん動向把握」班が34府県のデータから推計した最新値									
皮膚 ^(*3) : 皮膚の黒色腫を含む									

図3 年齢調整罹患率2013年(男)

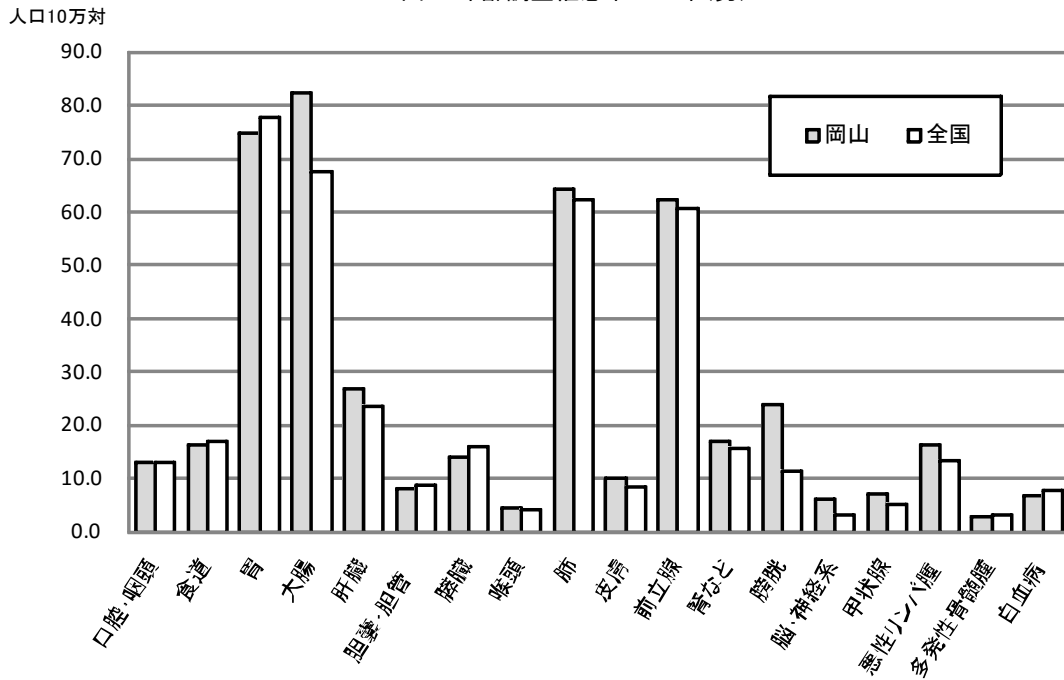


図4 年齢調整罹患率2013年(女)

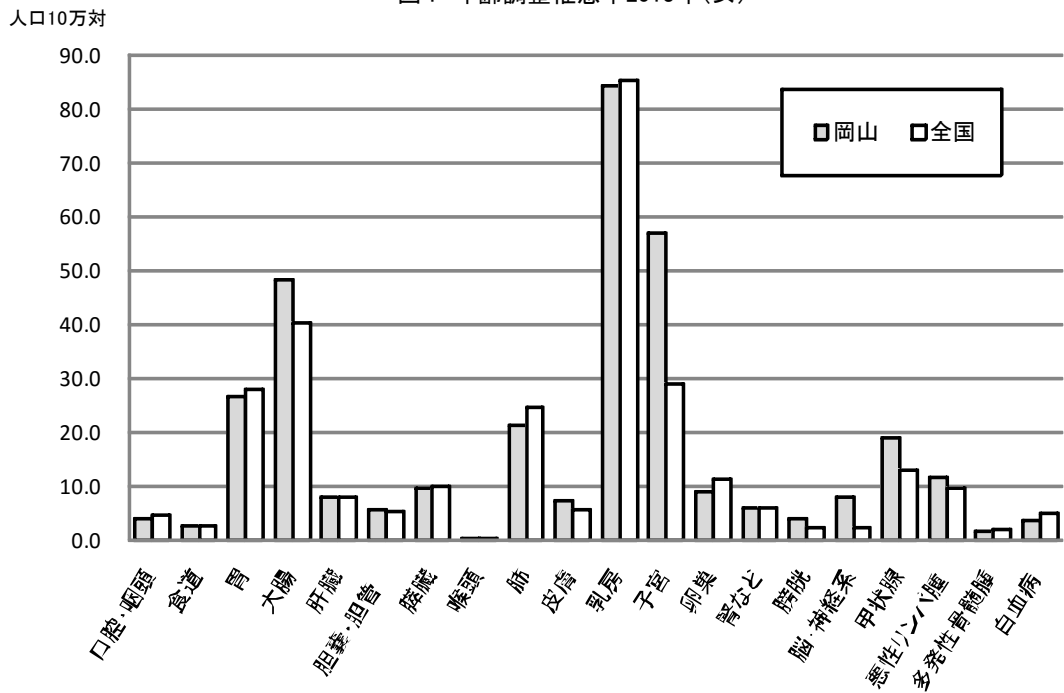


図5に岡山県の全部位の5歳年齢階級別・性別罹患率のグラフを2013年全国推計値とともに示した。

図6に全部位の年齢調整罹患率（標準人口：1985年日本人モデル人口）の1996年～2014年の年次推移を男女別に全国値（1996年～2013年推計値）とともに示した。

男女ともに、年齢調整罹患率は全国に比べ岡山は高くなっている。

図5 全部位の年齢階級別罹患率2013年(男女)

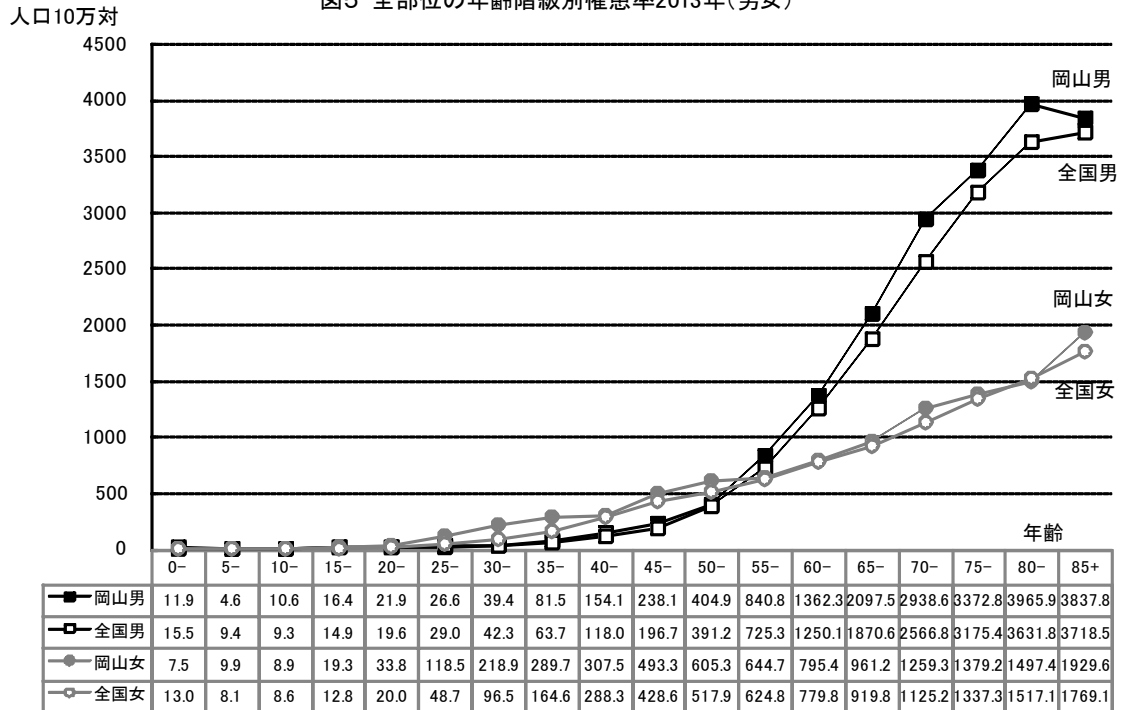
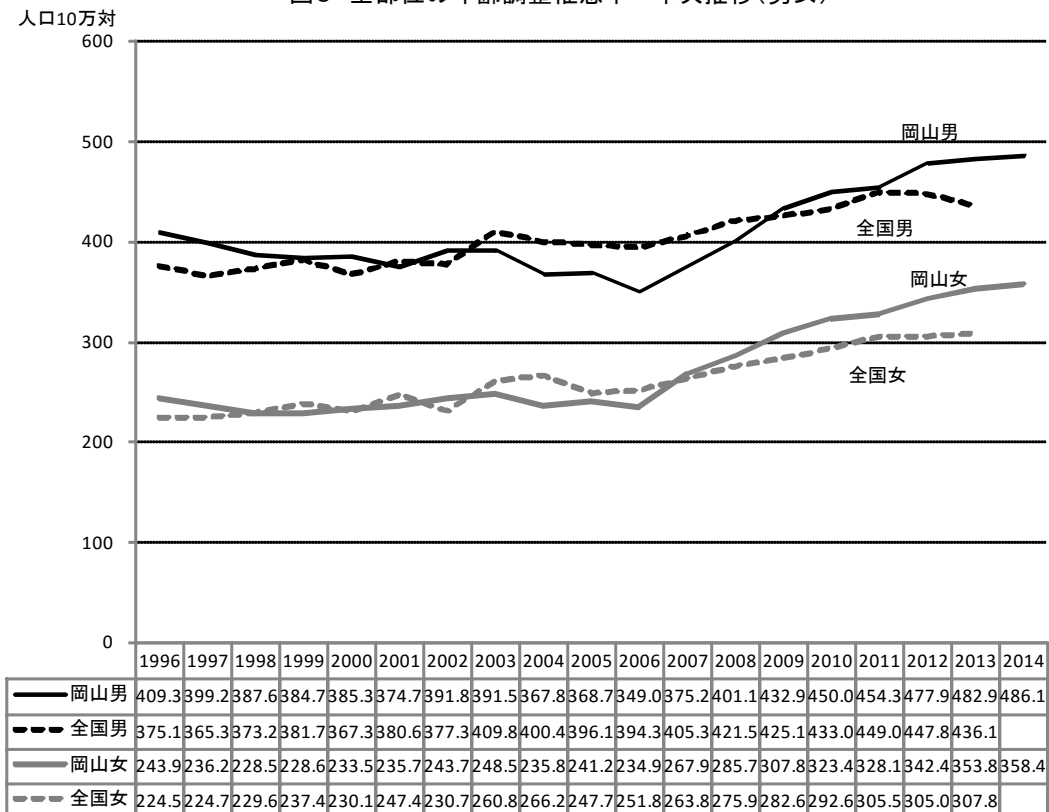


図6 全部位の年齢調整罹患率 年次推移(男女)



3. 年齢階級別罹患率

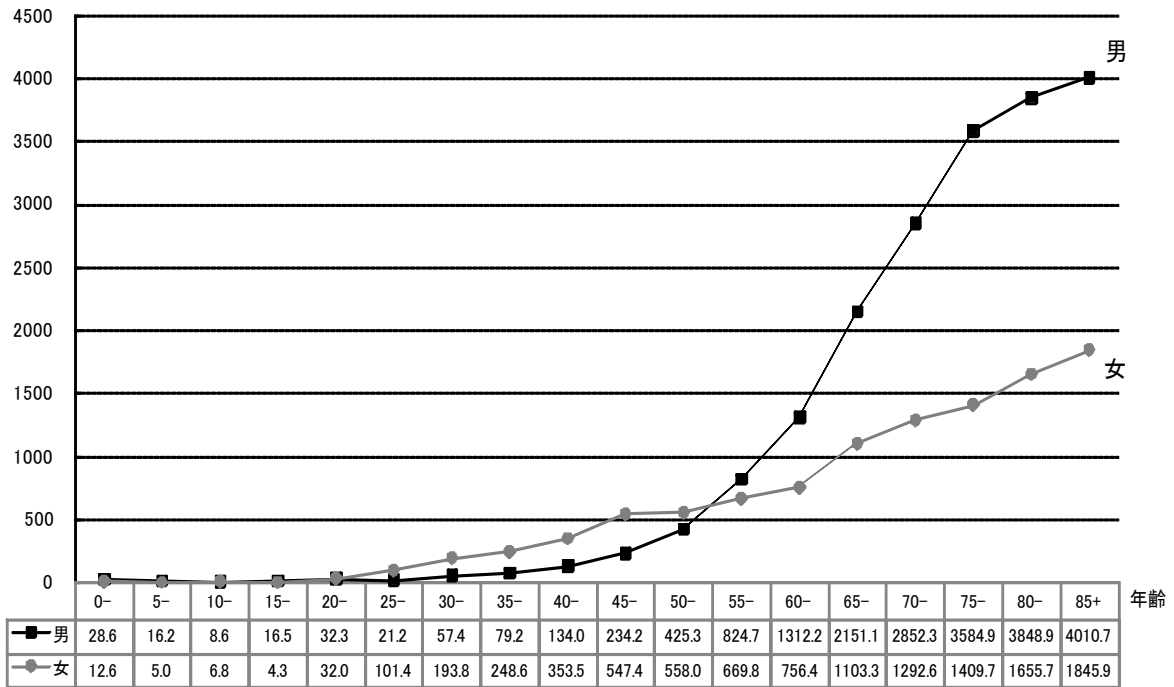
(1) 全部位の年齢階級別罹患率

全部位の年齢階級別罹患率を男女別に示した（図7）。

男女ともに年齢が高くなるにつれ、がん罹患率が高くなっている。男の罹患率は50歳を過ぎる辺りから急増する傾向にあり、年齢が高くなるにつれて男女の罹患の比率の差が大きくなっている。

人口10万対

図7 全部位の年齢階級別罹患率 2014年(男女)



(2) 特定部位別の年齢階級別罹患率

特定部位の年齢階級別罹患率を男女別に示した(図8、9)。

男は50歳台からいづれのがんも罹患率が増加している。肺がん、胃がん、大腸がんの罹患率は70歳台を超えても上昇している。

女では乳がんの好発年齢である40~60歳台までの罹患率が高くなっている。また、子宮がんの罹患率は子宮頸がんの好発年齢とされる20歳台から増加して、30歳台にピークになっている。

図8 年齢階級別罹患率 2014年 <特定部位> -男-

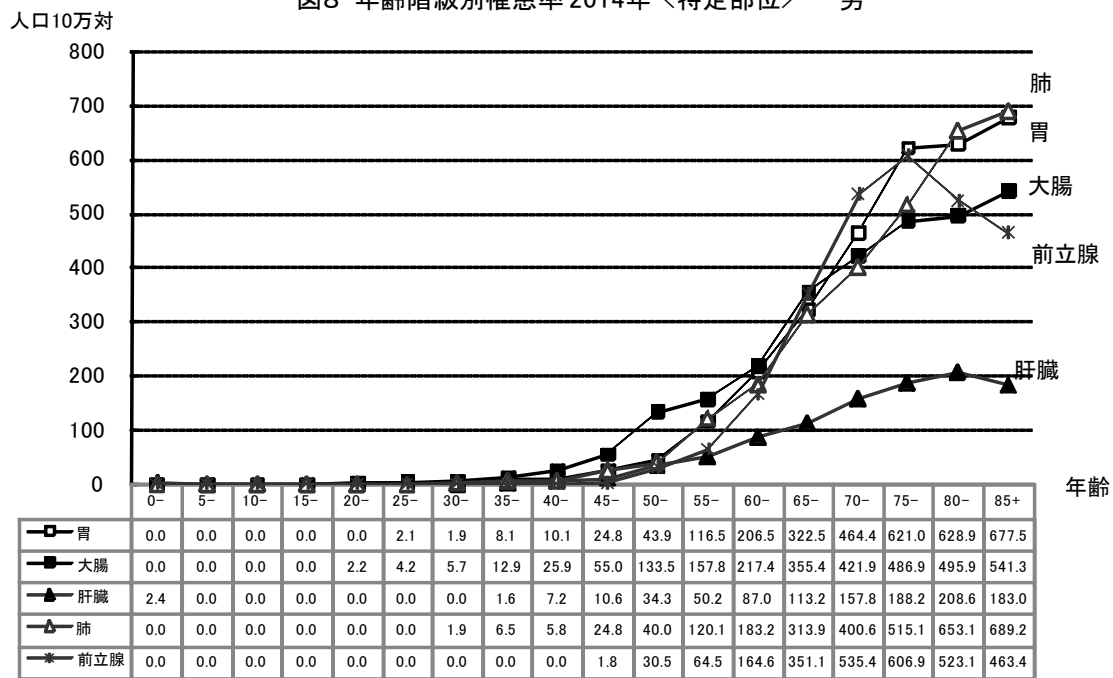
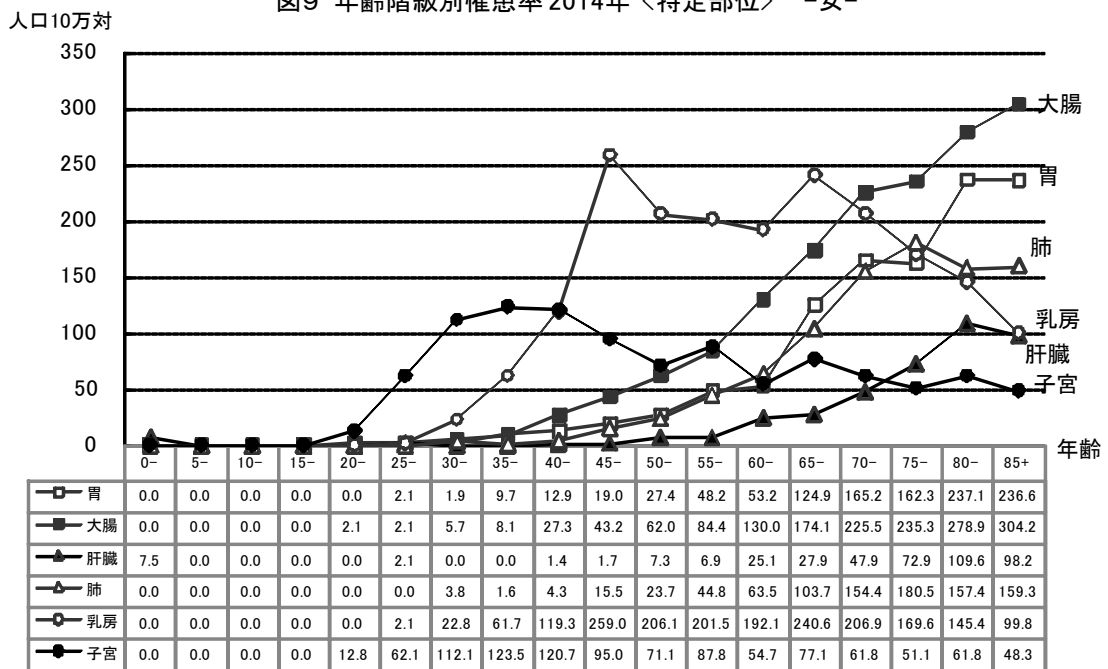


図9 年齢階級別罹患率 2014年 <特定部位> -女-



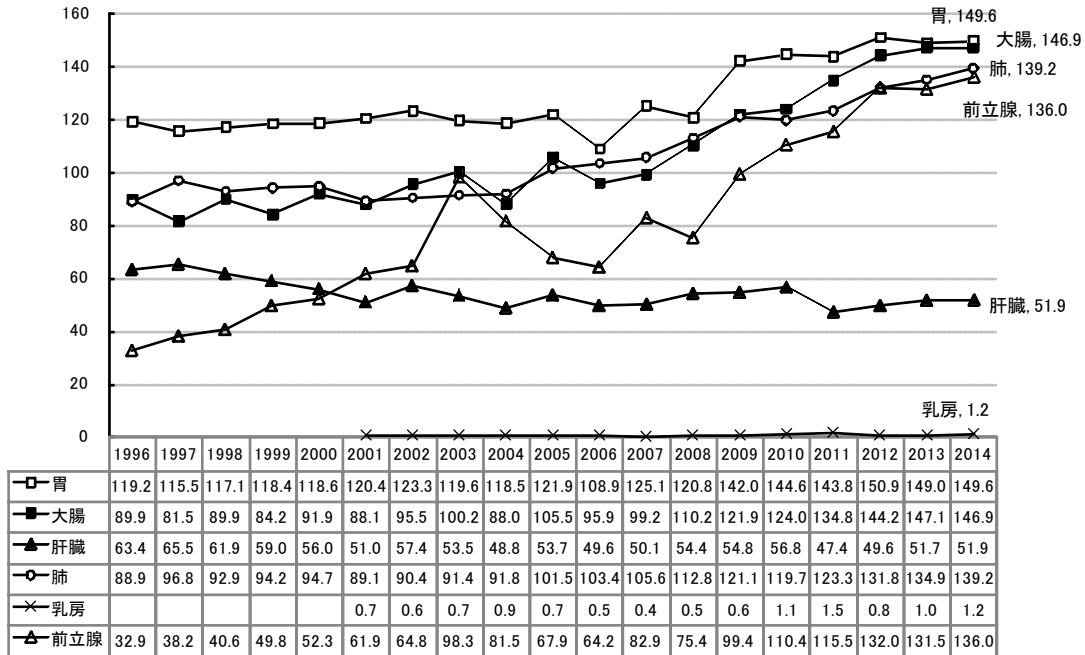
4. 男女別の主要部位別罹患率の年次推移

男の主要部位別罹患率の推移を粗罹患率と年齢調整罹患率とで示した（図 10、11）。

年齢調整罹患率をみると大腸がん 79.7、胃がん 72.1 が他の部位に比べて高く、前立腺がんの罹患カーブは 2008 年から 2012 年まで上昇傾向にある。大腸がんは 2011 年から 1 位となっている。

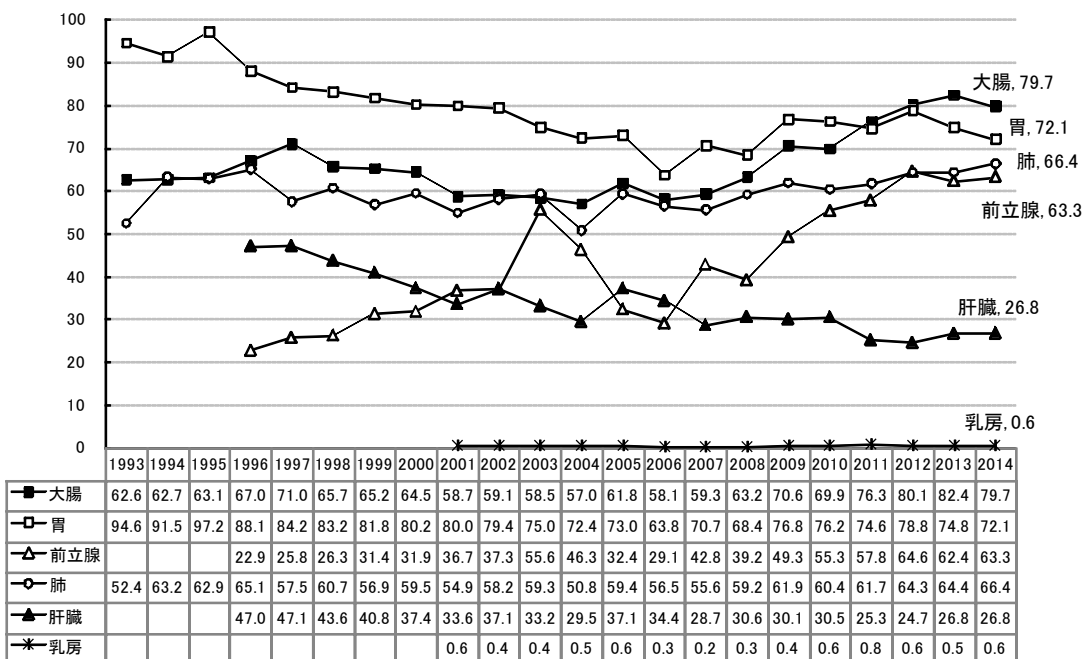
人口10万対

図10 粗罹患率の年次推移—主要部位別、男



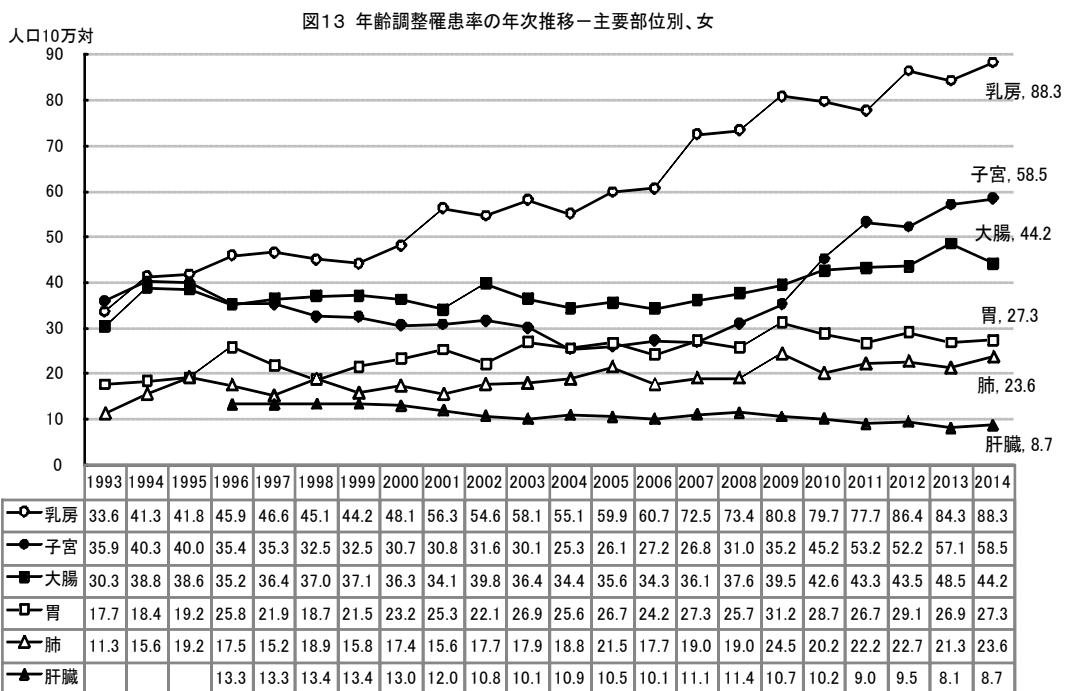
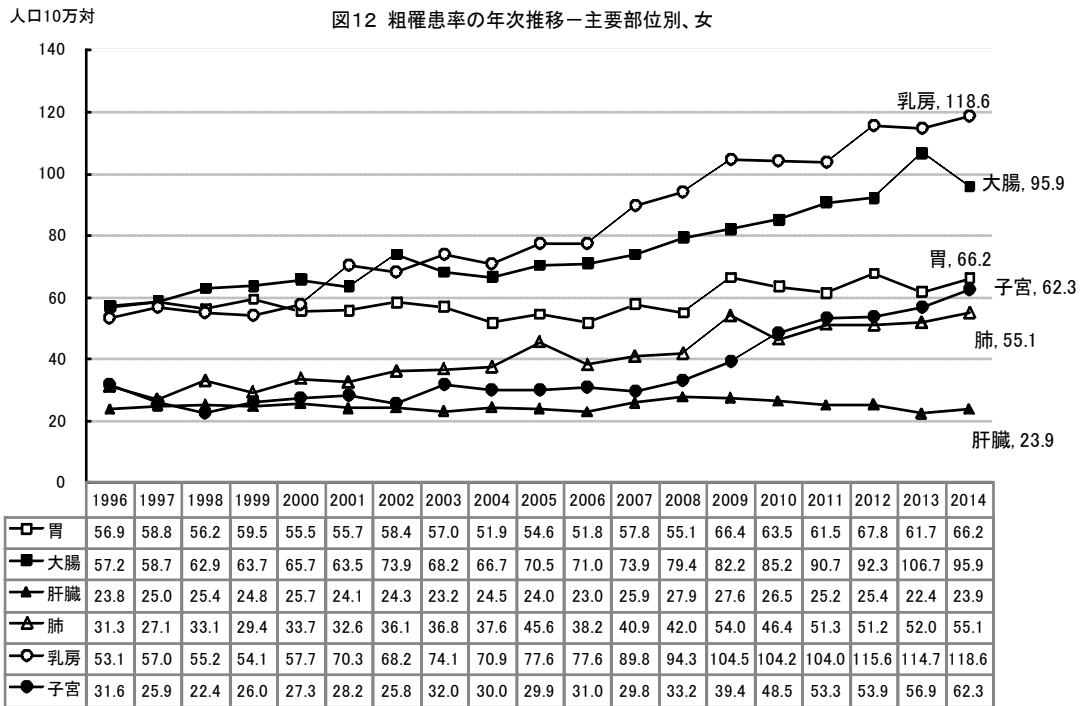
人口10万対

図11 年齢調整罹患率の年次推移—主要部位別、男



女の主要部位別罹患率の推移を粗罹患率と年齢調整罹患率とで示した（図12、13）。

年齢調整罹患率を見ると年次をおって乳がんの罹患率が高くなっており、2014年は人口10万対88.3と他のがんと比較すると圧倒的に高くなっている。



Ⅲ がん死亡数及び死亡率

1. 死亡数、粗死亡率、年齢調整死亡率及び死亡割合（主要部位別、男女別）

岡山県の2014年のがん死亡数、粗死亡率及び年齢調整死亡率、死亡割合を男女別、主要部位別に示した（表4）。

がん死亡数については人口動態統計の数値（外国人を含まない）を使用した。

県内のがん死亡者数は男が3,456人、女2,396人。合計5,852人に上り、全死亡者21,051人の約27.8%を占めている。

部位別死亡数は男では肺が最も多く849人、次いで胃の482人となっており、女では大腸が最も多く336人、次いで肺の327人となっている。

年齢調整死亡率（人口10万対）をみると、男では肺（40.8）、胃（22.4）が高く、女では大腸（11.1）、乳房（10.8）の順になっている。

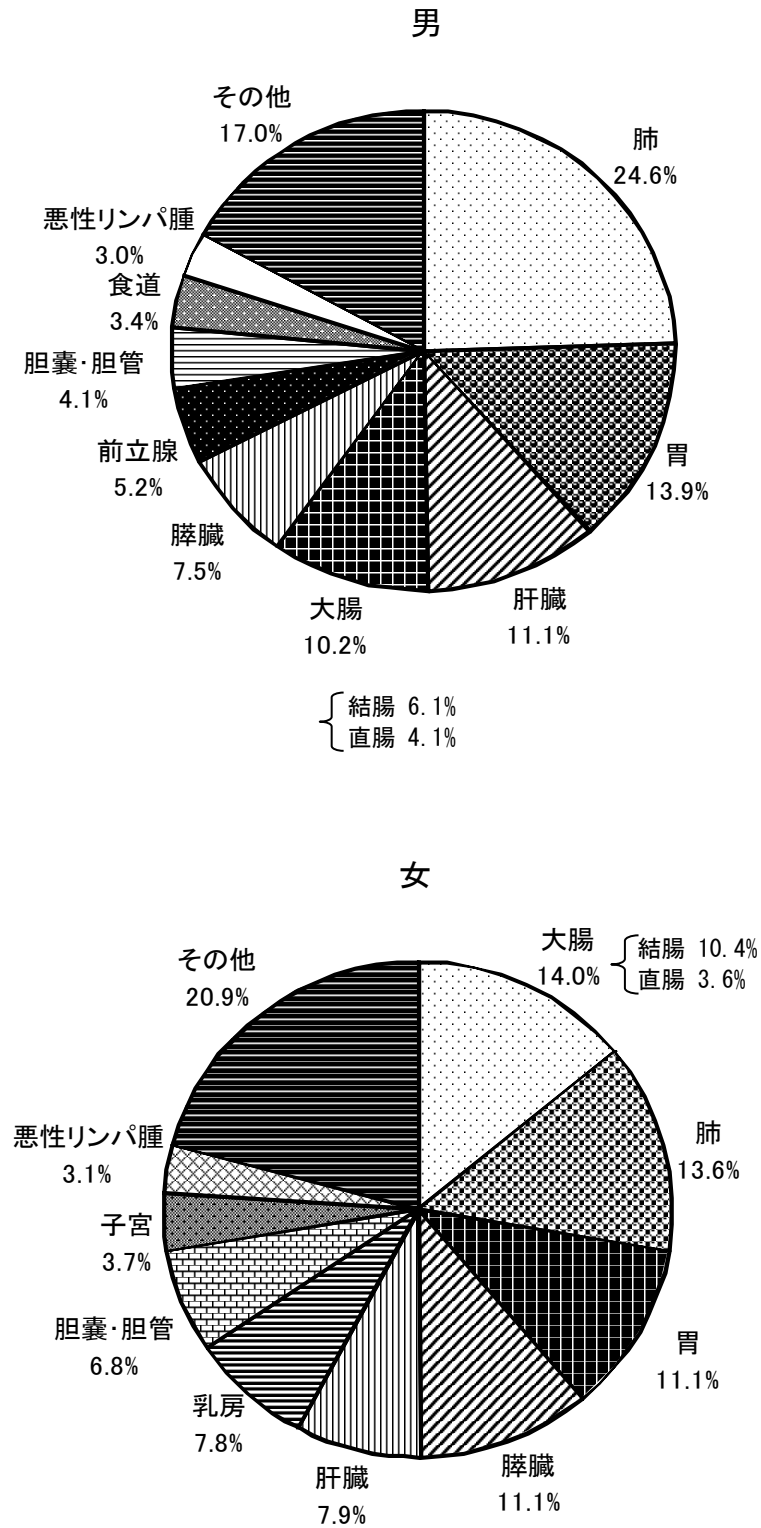
死亡割合についてみると、男では肺（24.6%）、胃（13.9%）、肝臓（11.1%）が、女では大腸（14.0%）、次いで肺（13.6%）、胃（11.1%）、膵臓（11.1%）が上位3位を占めた。

表4 死亡数、粗死亡率、年齢調整死亡率および死亡割合：主要部位別、男女別 2014年

部位	死亡数			粗死亡率		年齢調整死亡率		死亡割合	
	男	女	計	男	女	日本人人口 ^(*)		男	女
全部位	3,456	2,396	5,852	374.2	239.4	166.4	83.6	100.0%	100.0%
口腔・咽頭	83	43	126	9.0	4.3	4.5	1.2	2.4%	1.8%
食道	118	31	149	12.8	3.1	6.0	1.2	3.4%	1.3%
胃	482	266	748	52.2	26.6	22.4	9.0	13.9%	11.1%
大腸	352	336	688	38.1	33.6	17.7	11.1	10.2%	14.0%
┌ 結腸	211	249	460	22.8	24.9	10.2	7.5	6.1%	10.4%
└ 直腸	141	87	228	15.3	8.7	7.5	3.6	4.1%	3.6%
肝臓	384	190	574	41.6	19.0	18.4	5.8	11.1%	7.9%
胆嚢・胆管	142	162	304	15.4	16.2	6.0	4.2	4.1%	6.8%
膵臓	259	266	525	28.0	26.6	13.8	8.4	7.5%	11.1%
喉頭	14	0	14	1.5	0.0	0.6	0.0	0.4%	0.0%
肺	849	327	1,176	91.9	32.7	40.8	10.2	24.6%	13.6%
皮膚 ^(*)	8	10	18	0.9	1.0	0.3	0.4	0.2%	0.4%
乳房	1	186	187	0.1	18.6	0.0	10.8	0.0%	7.8%
子宮	-	89	89	-	8.9	-	4.6	-	3.7%
卵巣	-	65	65	-	6.5	-	3.3	-	2.7%
前立腺	179	-	179	19.4	-	6.8	-	5.2%	-
膀胱	76	45	121	8.2	4.5	3.2	1.0	2.2%	1.9%
脳・神経系	17	17	34	1.8	1.7	1.3	0.9	0.5%	0.7%
悪性リンパ腫	105	75	180	11.4	7.5	5.1	2.5	3.0%	3.1%
白血病	72	50	122	7.8	5.0	4.2	1.8	2.1%	2.1%
日本人人口 ^(*) : 1985年日本人モデル人口									
皮膚 ^(*) : 皮膚の黒色腫を含む									

上位9位の部位別死亡割合を男女別にグラフで示した（図14）。

図14 部位別死亡割合（%）2014年：主要部位別



2. 岡山県と全国の死亡率の比較

年齢調整死亡率を全国値と比較した（表 5、図 15、16）。岡山県の全国に対する比をみると全部位の男では 0.99、女では 0.94 と全国を下回っている。

部位別にみると、男では肝臓が 1.23、膵臓が 1.04、悪性リンパ腫が 1.04、肺が 1.03 で全国を上回った。女では肝臓が 1.14、胆嚢・胆管が 1.04、食道が 1.02、胃が 1.01 で全国を上回った。

岡山県では男女ともに年齢調整罹患率（2013 年）の全部位は全国値を上回っているものの、年齢調整死亡率は全国値を下回っている。

	年齢調整死亡率 ^(*)						年齢調整罹患率 ^(**) 2013年	
	男		女		岡山/全国		岡山/全国	
	岡山	全国	岡山	全国	男	女	男	女
全部位	166.4	168.9	83.6	89.4	0.99	0.94	1.11	1.15
食道	6.0	8.0	1.2	1.2	0.75	1.02	0.96	1.00
胃	22.4	24.1	9.0	9.0	0.93	1.01	0.96	0.95
大腸	17.7	21.0	11.1	12.2	0.84	0.91	1.22	1.20
{ 結腸	10.2	12.8	7.5	8.8	0.79	0.85	1.21	1.18
{ 直腸	7.5	8.2	3.6	3.5	0.91	1.03	1.23	1.22
肝臓	18.4	15.0	5.8	5.1	1.23	1.14	1.14	1.00
胆嚢・胆管	6.0	6.5	4.2	4.0	0.92	1.04	0.92	1.03
膵臓	13.8	13.3	8.4	8.5	1.04	0.99	0.88	0.97
肺	40.8	39.7	10.2	11.4	1.03	0.89	1.03	0.86
乳房	0.0	-	10.8	11.8	-	0.92	1.25	0.99
子宮	-	-	4.6	5.7	-	0.81	-	1.96
卵巣	-	-	3.3	4.2	-	0.78	-	0.80
前立腺	6.8	7.3	-	-	0.9	-	1.03	-
膀胱	3.2	3.6	1.0	1.0	0.88	0.98	2.09	1.54
悪性リンパ腫	5.1	4.9	2.5	2.6	1.04	0.98	1.25	1.21
白血病	4.2	4.3	1.8	2.2	0.98	0.82	0.87	0.75
年齢調整死亡率 ^(*) : 岡山の値については、表4から転記した。全国値については人口動態統計による。								
年齢調整罹患率 ^(**) : 表3から転記した2013年の年齢調整罹患率。								

図15 年齢調整死亡率2014年(男)

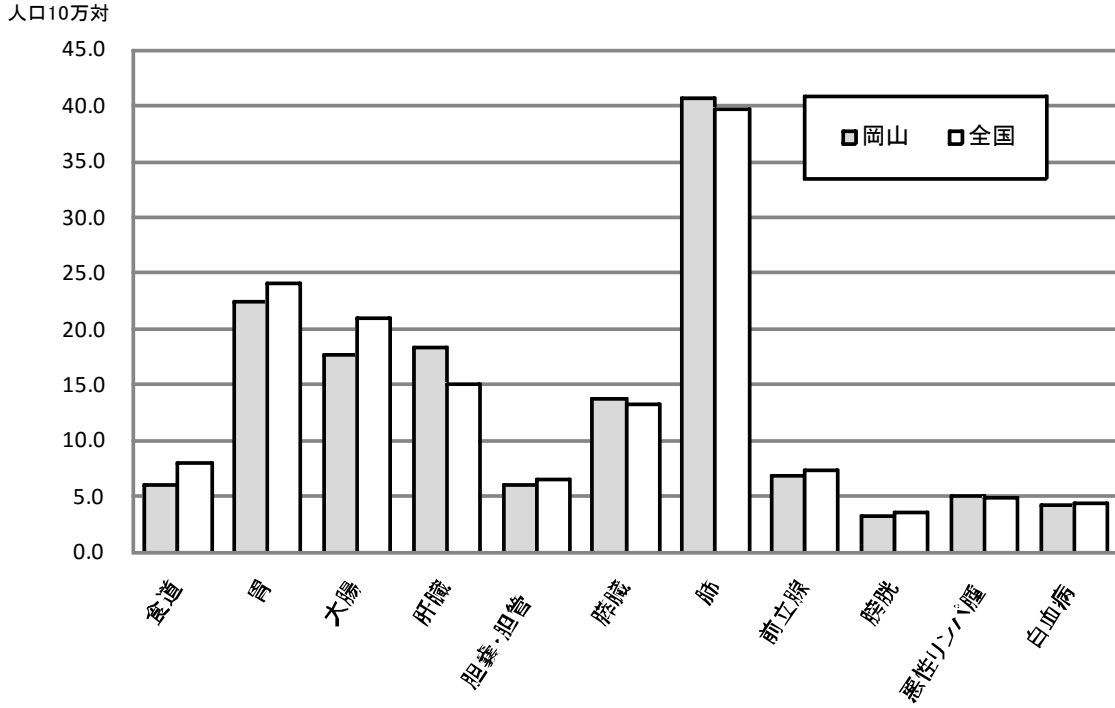
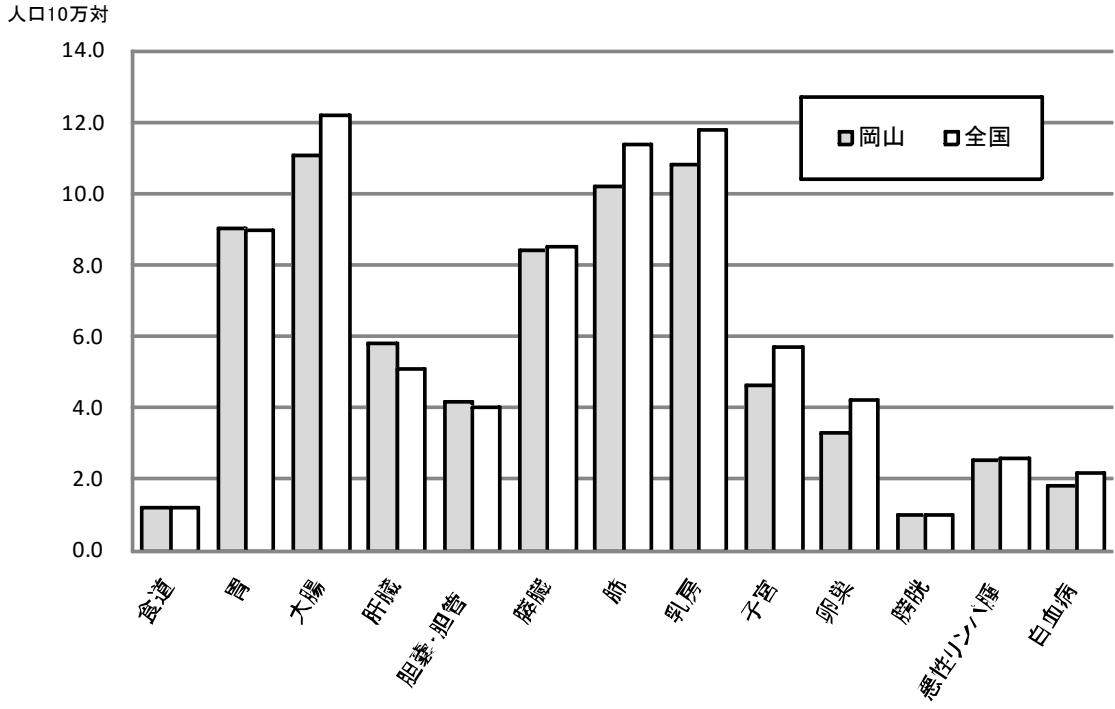


図16 年齢調整死亡率2014年(女)



IV 主要部位別罹患と死亡率の比較

男女計の罹患と死亡（人口動態統計による）について、数、粗率、年齢調整率を比較するとともに、罹患数の死亡数に対する比（I/M）及び死亡数の罹患数に対する比（M/I）を示した（表6）。

なお、外国人については罹患数集計では除外していないが、死亡数は除外した数値である。

届出の精度を示す第二の指標である全部位のIM比は2.62であった。

部位別のIM比は生存率の相対的な高低を示唆するものであるが、皮膚（24.00）、前立腺（7.02）、子宮（7.01）、脳・神経系（6.97）、喉頭（6.79）が高かった。

	数		粗率		年齢調整率 ^(*1)		罹患数	死亡数
	罹患(I)	死亡(M)	罹患(I)	死亡(M)	罹患(I)	死亡(M)	／死亡数	／罹患数
							(IM比)	(MI比)
全部位	15,344	5,852	797.3	304.1	411.5	119.7	2.62	0.38
口腔・咽頭	332	126	17.3	6.5	8.9	2.7	2.63	0.38
食道	359	149	18.7	7.7	9.4	3.4	2.41	0.42
胃	2,045	748	106.3	38.9	47.5	14.8	2.73	0.37
大腸	2,317	688	120.4	35.7	60.6	14.1	3.37	0.30
┌ 結腸	1,479	460	76.8	23.9	37.3	8.7	3.22	0.31
└ 直腸	838	228	43.5	11.8	23.3	5.4	3.68	0.27
肝臓	718	574	37.3	29.8	17.1	11.4	1.25	0.80
胆嚢・胆管	324	304	16.8	15.8	5.8	5.0	1.07	0.94
膵臓	623	525	32.4	27.3	14.2	11.0	1.19	0.84
喉頭	95	14	4.9	0.7	2.4	0.3	6.79	0.15
肺	1,838	1,176	95.5	61.1	42.7	23.7	1.56	0.64
皮膚 ^(*2)	432	18	22.4	0.9	8.6	0.4	24.00	0.04
乳房	1,198	187	62.2	9.7	45.8	5.7	6.41	0.16
子宮	624	89	32.4	4.6	29.8	2.5	7.01	0.14
卵巣	151	65	7.8	3.4	5.3	1.8	2.32	0.43
前立腺	1,256	179	65.3	9.3	28.7	2.7	7.02	0.14
膀胱	642	121	33.4	6.3	14.4	1.9	5.31	0.19
脳・神経系	237	34	12.3	1.8	7.9	1.1	6.97	0.14
悪性リンパ腫	510	180	26.5	9.4	13.7	3.7	2.83	0.35
白血病	162	122	8.4	6.3	6.2	2.9	1.33	0.75

年齢調整率^(*1)：標準人口は1985年日本人モデル人口を用いた。

皮膚^(*2)：皮膚の黒色腫を含む

2014年における特定部位の罹患数と死亡数を男女別に比較した（図17、18）。

男では罹患数3位の肺、女では罹患数2位の大腸が死亡数では1位であった（付表11、12、22、23）。

生存率を反映するIM比は男の前立腺（7.0）、女の子宮（7.0）、乳房（6.4）が高く、これらの部位は予後が比較的良好と考えられる。

図17 罹患数及び死亡数2014年<特定部位>—男—

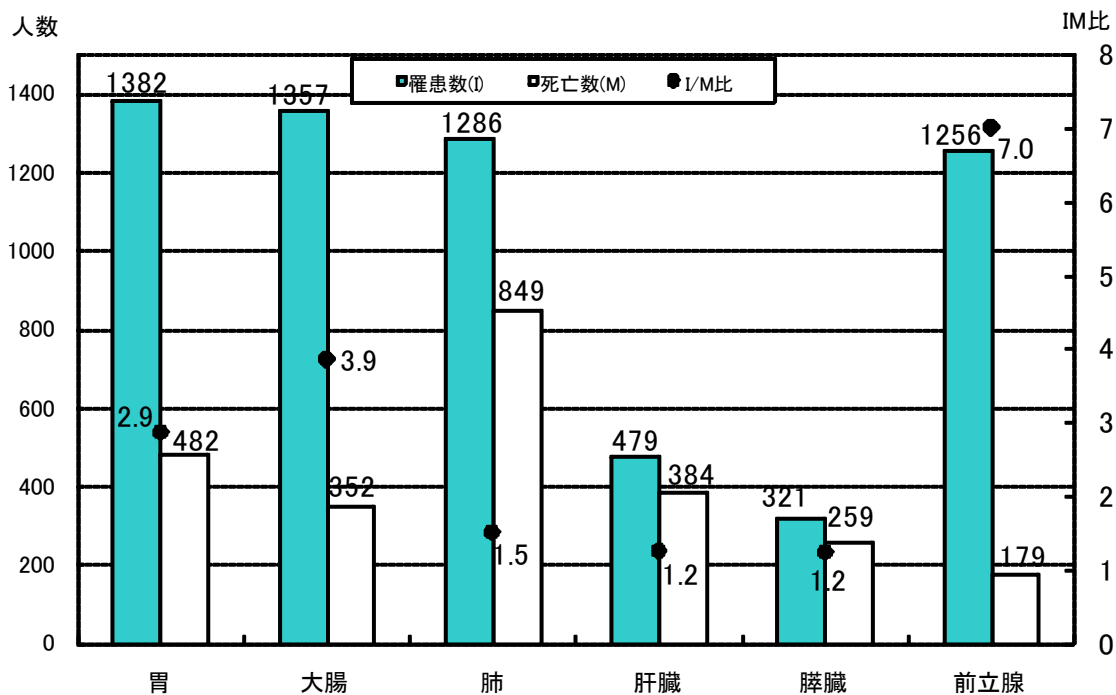
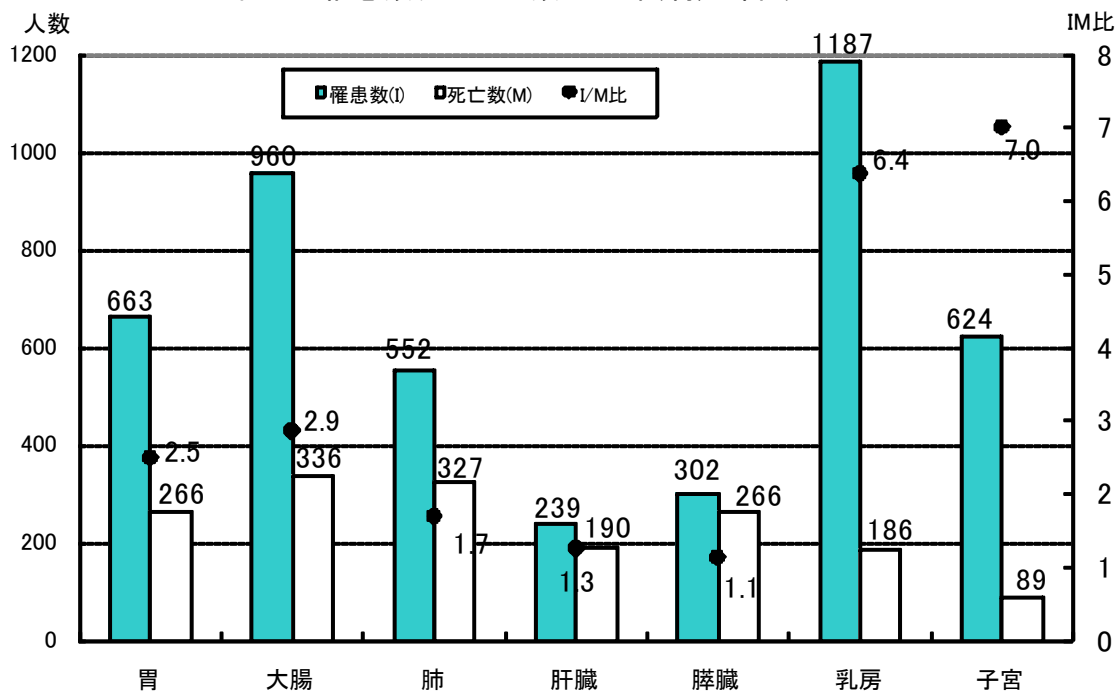


図18 罹患数及び死亡数2014年<特定部位>—女—



V がんの受療状況

1. 受診動機

(1) 特定部位別受診の動機分布

受診の動機の分布を特定部位別に示した(表7)。「集団検診(集検)」及び「人間ドック」は自発的検診としてまとめて表示した。

判明者の内訳は、全部位は「他病治療中」が21.1%、「自覚症状」が11.2%、「集検又は人間ドック」が6.5%となった。

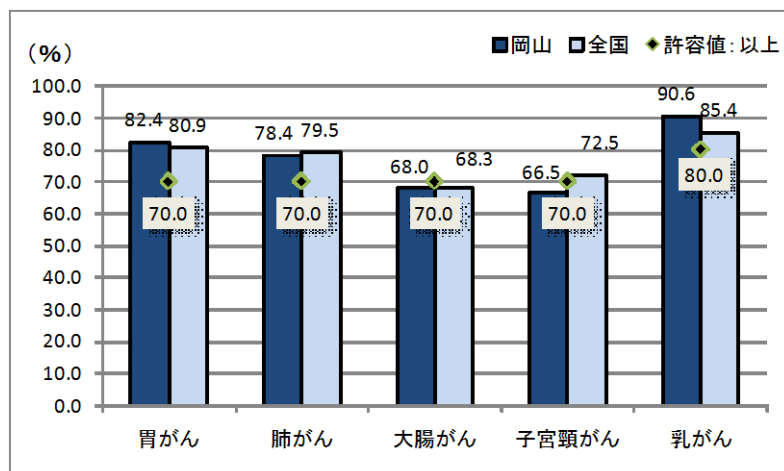
部位別では「集検又は人間ドック」の割合は乳房で最も多く19.8%。次いで前立腺、子宮、直腸、結腸、胃の順になった。「自覚症状」は乳房が最も多く20.9%、「他病治療中」は肝臓が34.1%で最も多かった。

表7 受診の動機の分布: 特定部位別、男女計 2014年

	届出患者数	受診の動機が判明しているものの割合(%)	受診の動機の内訳(%)			
			集団検診又は人間ドック(自発的検診)	自覚症状(医療機関受診)	他病治療中	その他 ^(*)
全部位	15,063	98.6	6.5	11.2	21.1	61.2
胃	2,013	98.5	6.9	12.2	20.2	60.7
結腸	1,462	98.2	7.9	13.0	22.3	56.8
直腸	835	98.7	8.3	18.8	15.7	57.3
肝臓	693	97.0	1.8	5.2	34.1	58.9
肺	1,791	98.4	4.4	6.9	26.9	61.7
乳房	1,187	99.6	19.8	20.9	9.6	49.7
子宮	620	99.4	10.9	11.2	18.2	59.7
前立腺	1,244	99.3	12.9	6.1	22.2	58.9

その他^(*): 受診の動機が「不明」として登録されたものを含む。

【参考】市町村が実施するがん検診の精検受診率及び全国との比較(平成26年度)



【出典: 厚生労働省「平成27年度地域保健・健康増進事業報告」】

(2) 受診の動機別、根治的治療実施割合

検診群（集検又は人間ドック）、非検診群について、根治的治療（手術、内視鏡的治療、体腔鏡的治療）の受療割合を示した（図19、20）。根治的治療の受療割合は検診群が全部位で92.2%と非検診群の83.6%を上回った。各部位でも検診群の方が非検診群に比べ高い。非検診群では特に肝臓、前立腺、胃において根治的治療の実施割合が低かった。

図19 根治的治療実施割合<検診群>2014年

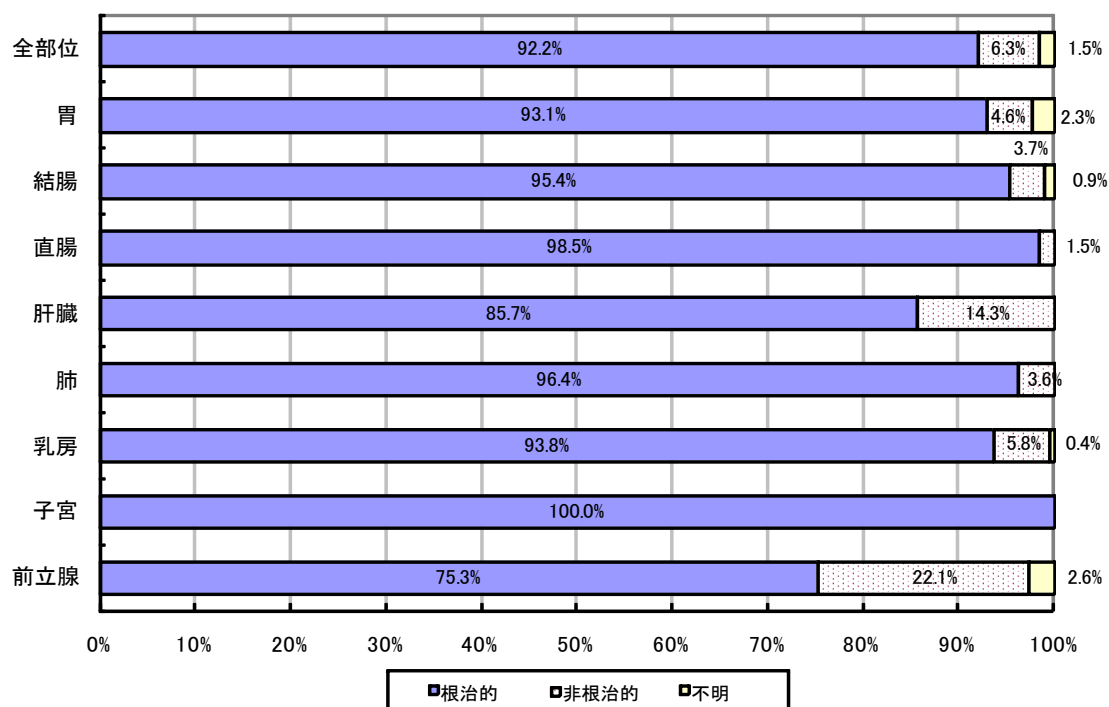
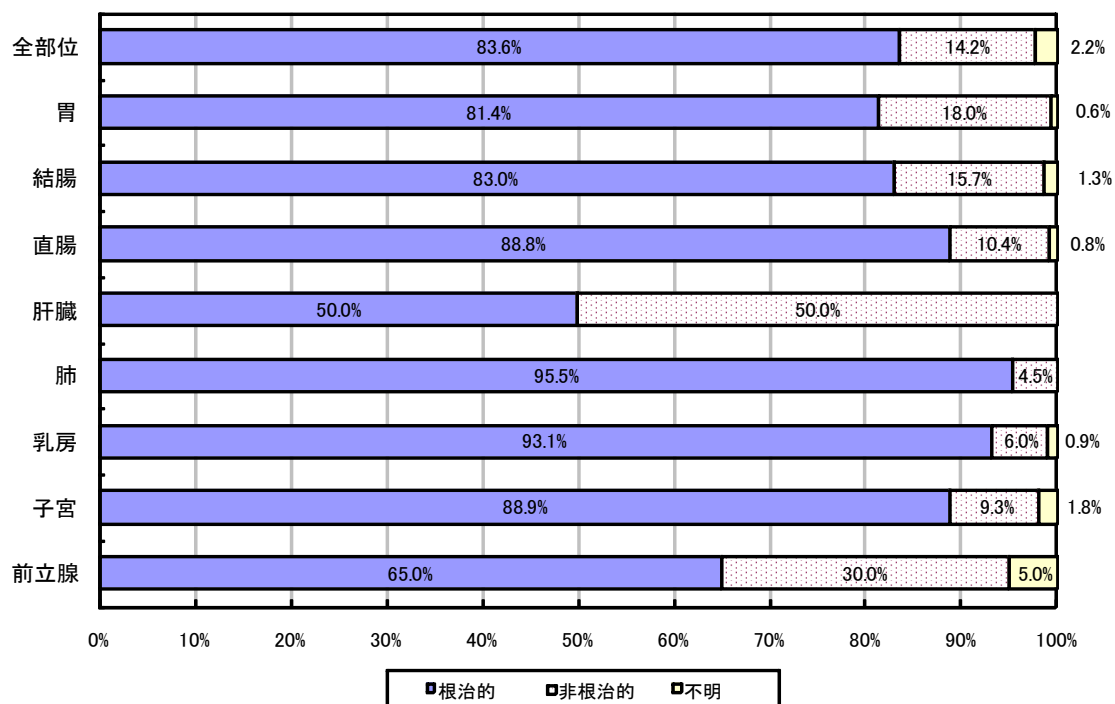


図20 根治的治療実施割合<非検診群>2014年



(3) 部位別、進行度割合

検診群、非検診群について進行度別割合を示した(図21、22)。上皮内がんの占める割合は検診群では子宮が71.6%、非検診群でも子宮が27.5%と高くなっている。また、どの部位においても、リンパ節や他の臓器への転移もなく原発臓器内にとどまっている割合は検診群の方が高かった。

図21 進行度割合<検診群> 2014年

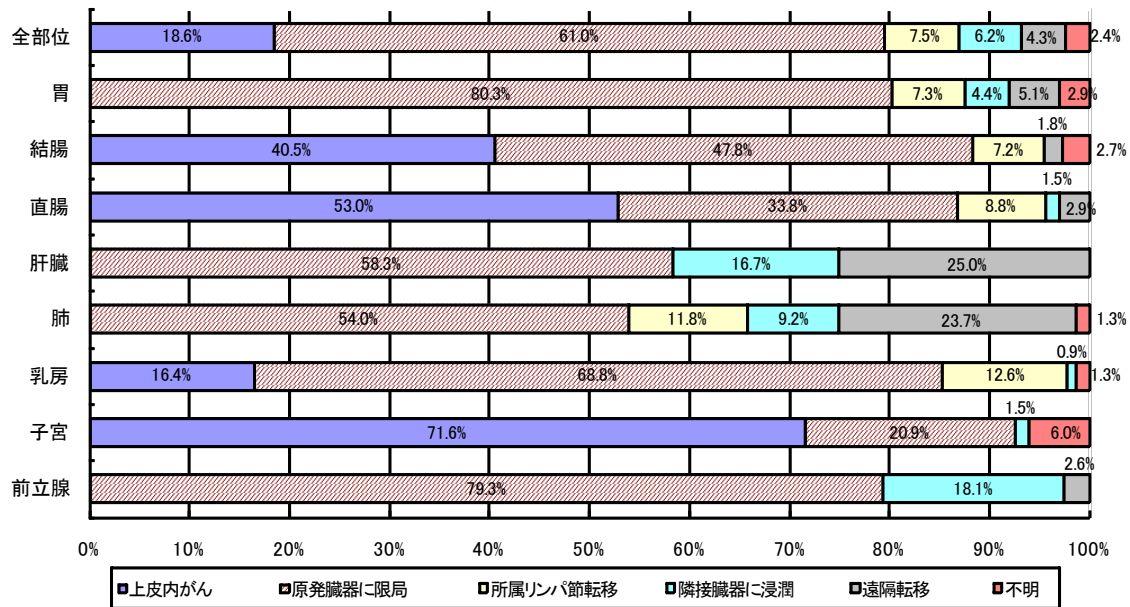
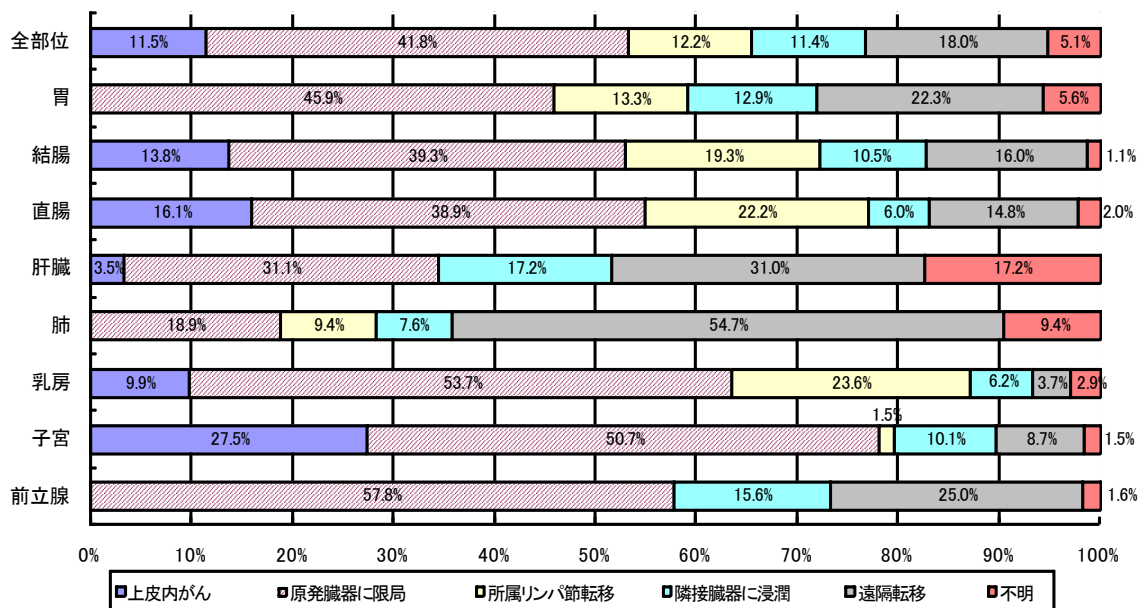


図22 進行度割合<非検診群> 2014年



2. 診断方法の分布

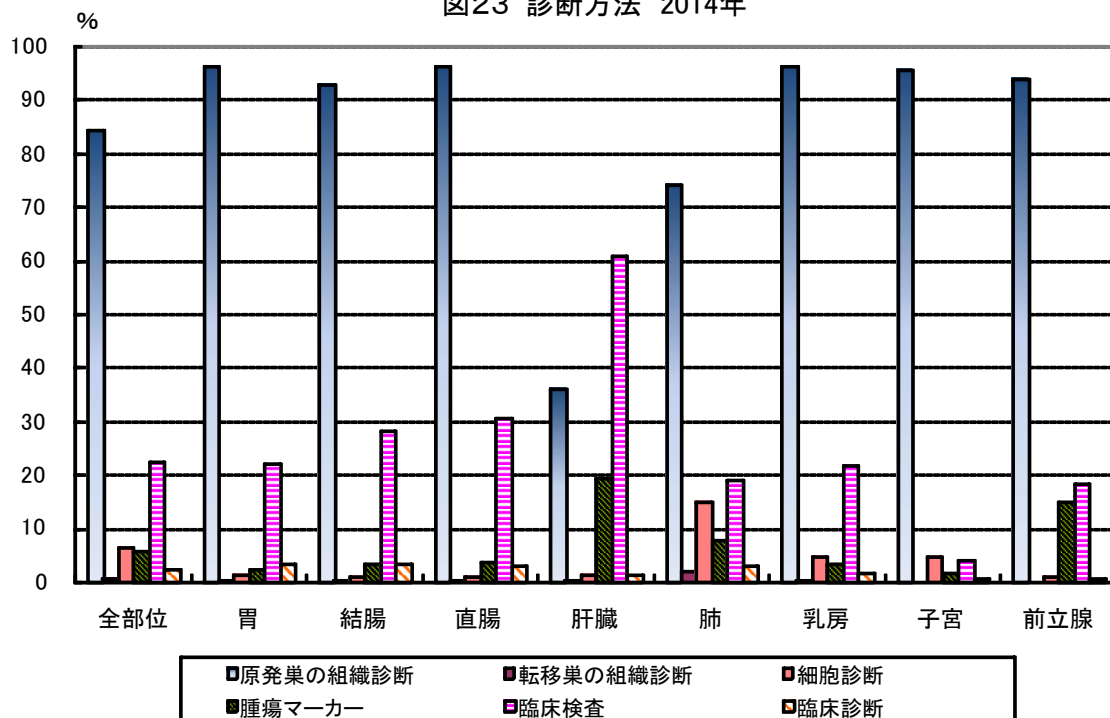
診断方法の分布を示した（表 8、図 23）。複数の診断方法を受けた場合にはそれぞれの診断方法ごとに重複して計上した。

診断方法実施率の割合は全部位では原発巣の組織診断が 84.6%と高く、次いで臨床検査、細胞診断、腫瘍マーカーの順であった。部位別では肝臓以外の部位は組織診断（原発巣の組織診断、転移巣の組織診断）が実施された割合が高く、細胞診断は肺、子宮、乳房が比較的高かった。

表8 診断方法実施率の分布: 特定部位別 2014年

	届出患者数	診断方法		診断方法実施率の分布 (%)					
		不明 (%)	判明 (%)	原発巣の組織診断	転移巣の組織診断	細胞診断	腫瘍マーカー	臨床検査	臨床診断
全部位	15,063	1.4	98.6	84.6	0.6	6.6	5.5	22.4	2.1
胃	2,013	1.5	98.5	96.5	0.1	1.3	2.0	21.8	3.2
結腸	1,462	1.2	98.8	92.9	0.2	0.9	3.3	28.0	3.1
直腸	835	1.1	98.9	96.5	0.2	1.0	3.5	30.5	2.9
肝臓	693	1.7	98.3	36.3	0.1	1.5	19.2	60.8	1.3
肺	1,791	1.6	98.4	74.4	2.0	14.9	7.7	18.9	2.9
乳房	1,187	0.8	99.2	96.5	0.3	4.8	3.3	21.5	1.5
子宮	620	0.3	99.7	95.8	0.0	4.9	1.5	3.9	0.5
前立腺	1,244	1.0	99.0	94.2	0.0	1.1	14.9	18.1	0.6

図23 診断方法 2014年



3. 治療方法の分布

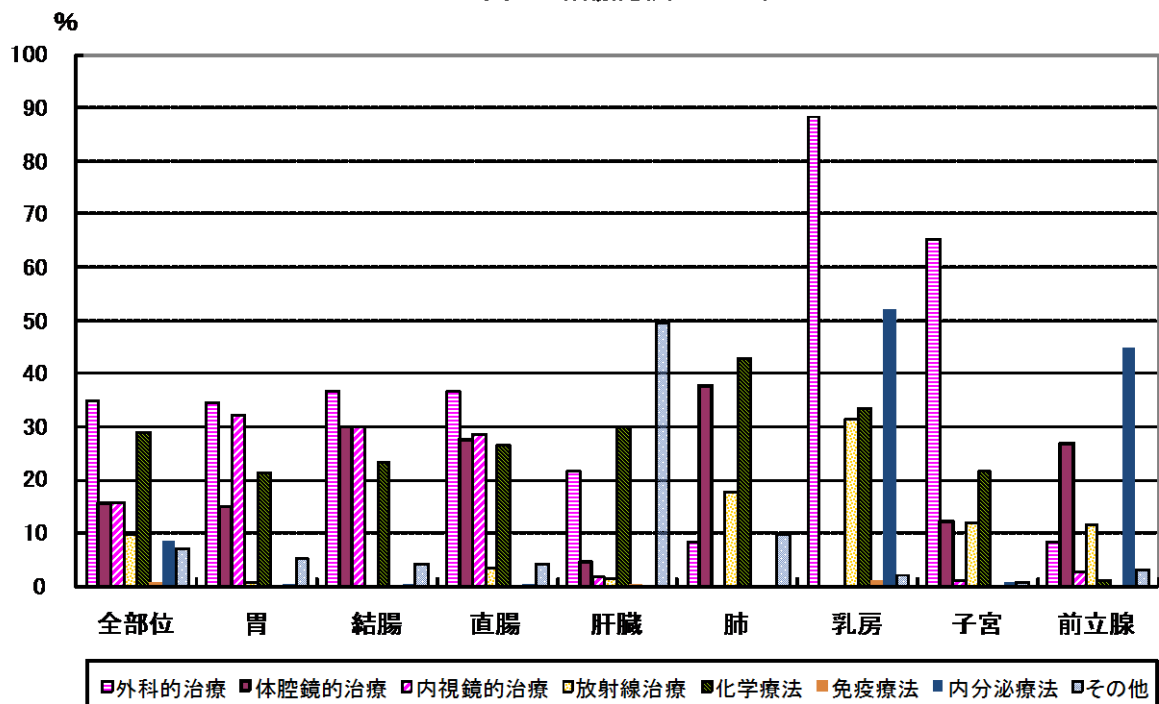
治療方法の実施率の分布を示した（表9、図24）。治療について、併用療法を受けた場合にはそれぞれの治療方法ごとに重複して計上した。

全部位では「外科的治療」の割合が最も高く34.9%であった。部位別で見ると「外科的治療」の割合が高いのは乳房（88.4%）、子宮（65.2）で、低いのは肺（8.1%）、前立腺（8.3%）であった。「放射線治療」は乳房（31.5%）、肺（17.6%）、「化学療法」は肺（42.8%）、乳房（33.6%）、「内分泌療法」は乳房（52.2%）、前立腺（44.7%）で高かった。

表9 治療方法実施率の分布:特定部位別 2014年

	届出患者数	治療方法		治療方法実施率の分布(%)							
		不明(%)	判明(%)	外科的治療	体腔鏡的治療	内視鏡的治療	放射線治療	化学療法	免疫療法	内分泌療法	その他
全部位	15,063	4.2	95.8	34.9	15.5	15.6	9.6	28.8	0.8	8.5	7.1
胃	2,013	4.1	95.9	34.4	15.0	32.1	0.5	21.3	0.0	0.2	5.3
結腸	1,462	4.2	95.8	36.8	30.1	30.0	0.3	23.2	0.0	0.1	4.4
直腸	835	2.8	97.2	36.6	27.7	28.4	3.3	26.4	0.0	0.2	4.2
肝臓	693	5.6	94.4	21.6	4.6	1.7	1.4	30.0	0.3	0.0	49.8
肺	1,791	6.1	93.9	8.1	37.7	0.2	17.6	42.8	0.0	0.0	9.9
乳房	1,187	1.3	98.7	88.4	0.0	0.3	31.5	33.6	1.3	52.2	2.3
子宮	620	2.1	97.9	65.2	12.2	0.8	11.7	21.6	0.0	0.7	1.0
前立腺	1,244	3.5	96.5	8.3	26.8	2.7	11.3	0.9	0.0	44.7	3.3

図24 治療方法 2014年



4. 診断時の病巣の広がり

診断時の臨床進行度（病巣の広がり）を示した（表10）。

本登録室では、1 上皮内、2 原発臓器に限局、3 所属リンパ節転移、4 隣接臓器に浸潤、5 遠隔転移の5 病期分類からなる「臨床進行度分類」を採用した。

がんが原発臓器に限局（上皮内がんを含む）していたのは全部位で 56.3%であった。部位別では皮膚が 90%を超え、膀胱、脳などで 80%を超えた。「隣接臓器に浸潤」については卵巣、胆嚢・胆管が 40%を超え、「遠隔転移」についてはリンパ腫などが 48.6%、膵臓が 43.8%と極めて高く、これらの部位は病期が進んでからの発見が多いと言える。

部位	臨床進行度 判明(%)	進行度の分布(%)					
		上皮内がん (A)	原発臓器に 限局(B)	(A)+(B)	所属リンパ節 転移	隣接臓器に 浸潤	遠隔転移
全部位	93.4	10.3	46.0	56.3	8.5	12.7	16.0
口腔・咽頭	93.4	6.3	40.4	46.7	16.2	25.5	5.0
食道	95.1	12.5	38.3	50.8	8.8	21.9	13.7
胃	96.2	0.0	59.5	59.5	10.7	9.3	16.8
結腸	96.4	20.6	37.2	57.8	14.1	10.1	14.3
直腸	96.4	18.8	41.0	59.8	16.5	6.0	14.1
肝臓	92.8	1.1	71.2	72.3	1.7	9.3	9.4
胆嚢・胆管	86.2	0.0	21.3	21.3	1.1	40.1	23.8
膵臓	91.8	0.9	7.2	8.1	1.4	38.5	43.8
喉頭	98.6	11.6	65.2	76.8	4.3	15.9	1.4
肺	94.2	0.1	41.1	41.2	11.1	8.2	33.7
皮膚 ^(*1)	97.4	24.9	67.3	92.2	0.7	4.5	0.0
乳房	97.0	11.2	58.0	69.2	19.0	4.0	4.7
子宮	97.7	42.4	35.0	77.4	1.0	13.4	5.9
卵巣	97.0	0.0	23.5	23.5	2.3	48.5	22.7
前立腺	97.0	0.0	67.0	67.0	0.5	20.0	9.6
腎など ^(*2)	95.3	8.6	48.3	56.9	1.3	20.5	16.6
膀胱	96.6	58.1	29.1	87.2	0.8	6.4	2.2
脳など	88.8	0.0	84.0	84.0	0.5	2.7	1.6
甲状腺	96.9	0.0	49.6	49.6	34.5	8.9	3.9
リンパ腫など	90.0	0.0	27.3	27.3	0.8	13.2	48.6
多発性骨髄腫	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
白血病など	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.5
皮膚 ^(*1) : 皮膚の黒色腫を含む							
腎など ^(*2) : 上皮内がんは「その他の泌尿器」に属するもので占められる							

VI 登録罹患者の5年相対生存率

本集計の対象は、2011年1月1日から2011年12月31日までの間にがんと診断されたものである。

生存率計測は予後不詳の罹患者割合を対象者の5%未満に留めることを目標とされている。

本登録室は人口動態調査死亡票の照合による確認のみで、通常生存確認調査は実施しておらず、県外転出により死亡の情報を得ていない罹患者を生存とみなして扱うため、実際より生存率を高く見積もっている可能性がある。

相対生存率はがん以外の死因により死亡した罹患者情報を把握していない場合、がん以外による死亡を補正するものであり、一般住民群について生命表から求めた期待生存率に対する実測生存率の比である。

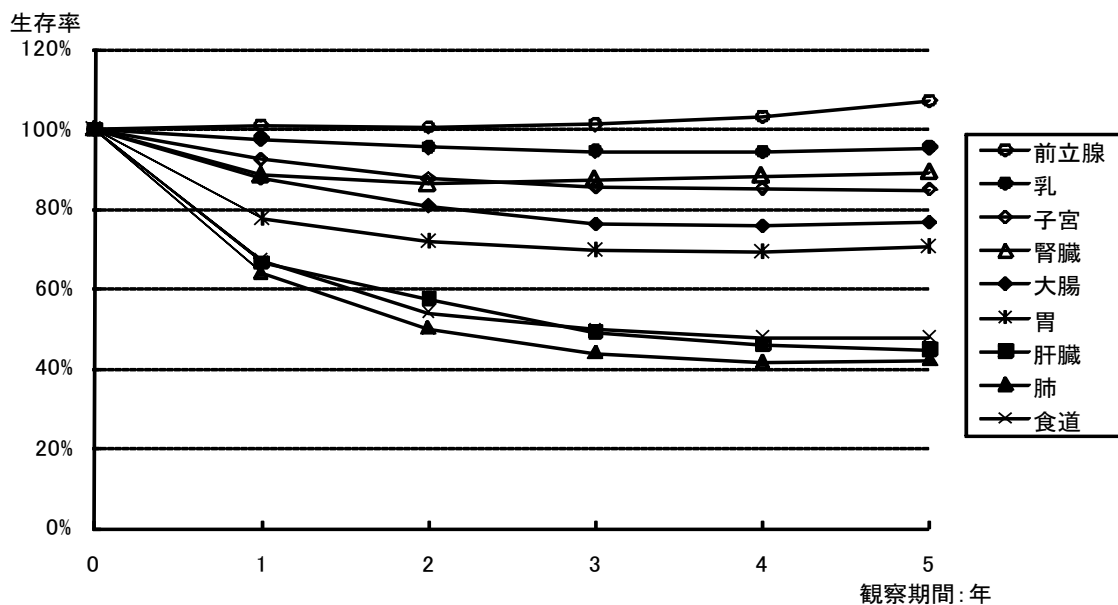
$$\text{相対生存率} = \text{実測生存率} / \text{期待生存率}$$

算定の条件として

- 1) 死亡情報によって本登録室が初めて把握した症例（DCN）で補充調査により生前の医療情報を得ることができた症例は診断日より対象とした。
- 2) 死亡情報のみで登録された症例（DCO）は除外した。
- 3) 上皮内がんのみの症例は除外した。
- 4) 多重がんの症例は第一がんを集計対象としているが、第一がんが上皮内がんの場合は第二がんを集計対象とした。

部位別の5年相対生存率を示した（図25）。

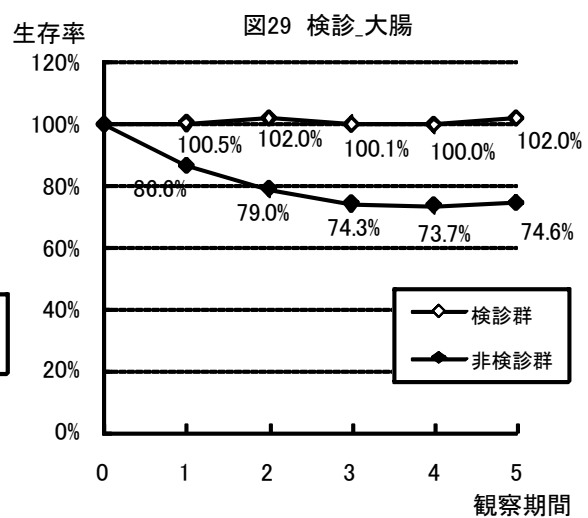
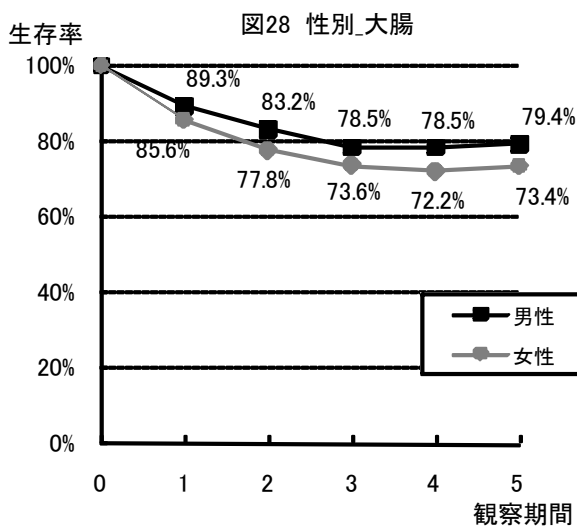
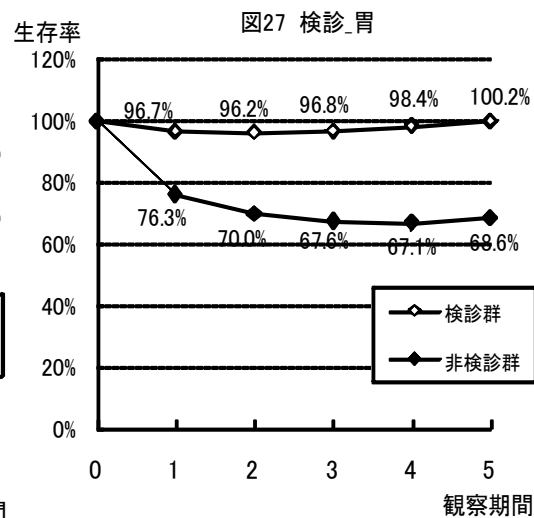
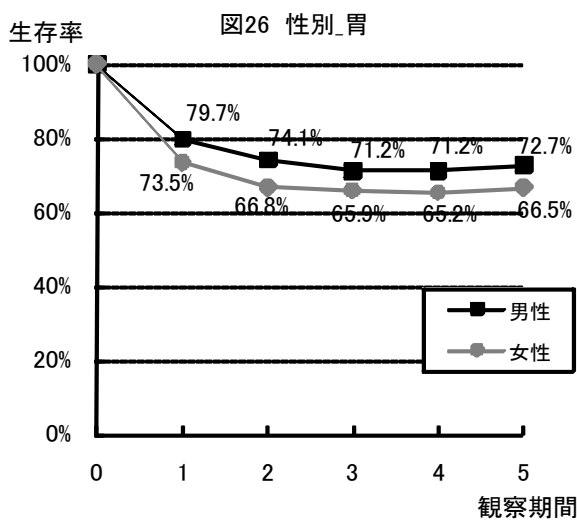
図25 部位別5年相対生存率 男女計 2011年

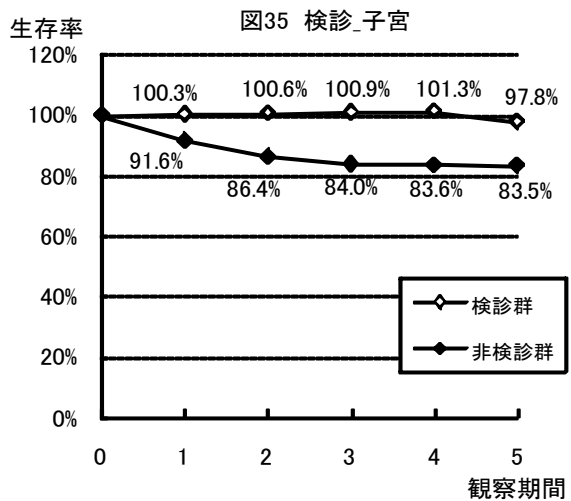
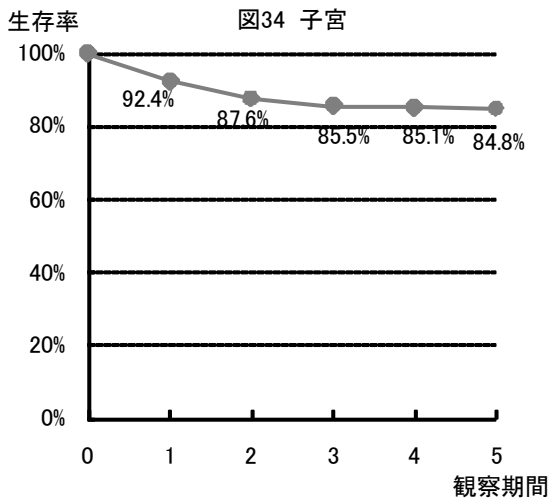
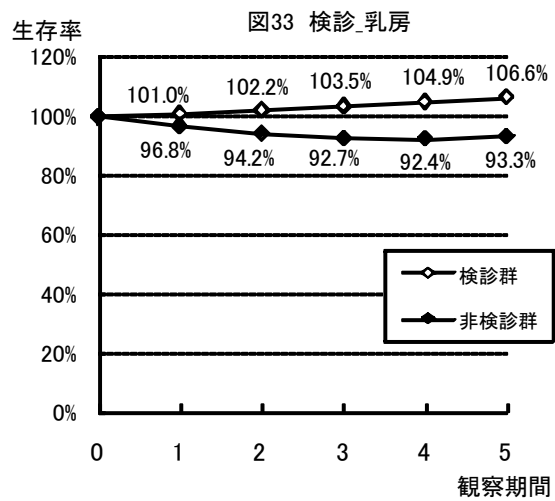
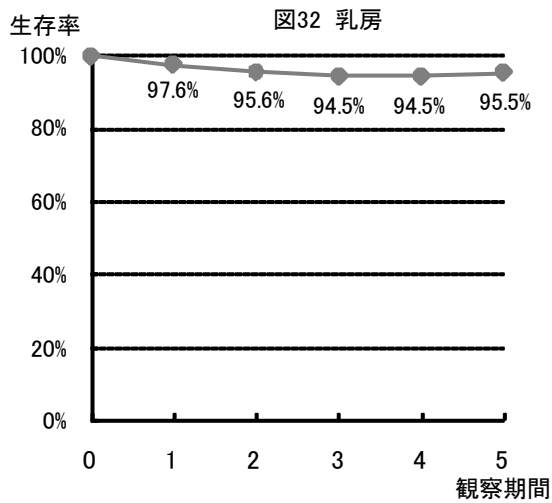
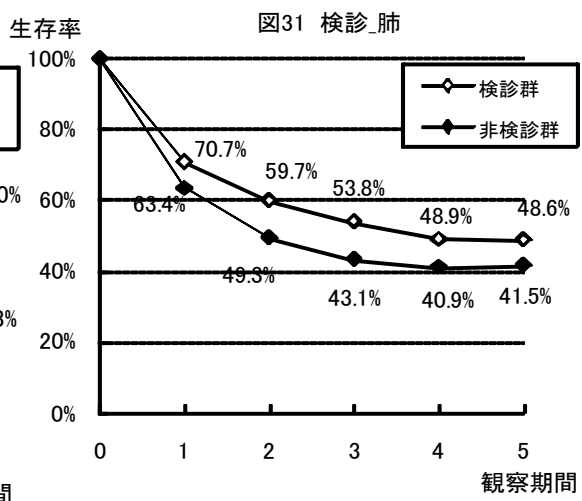
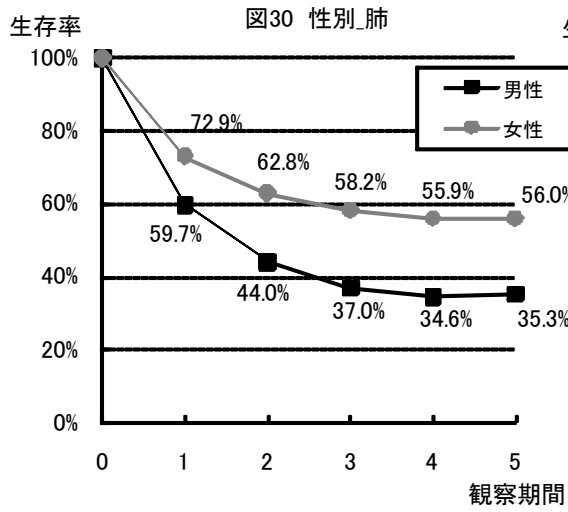


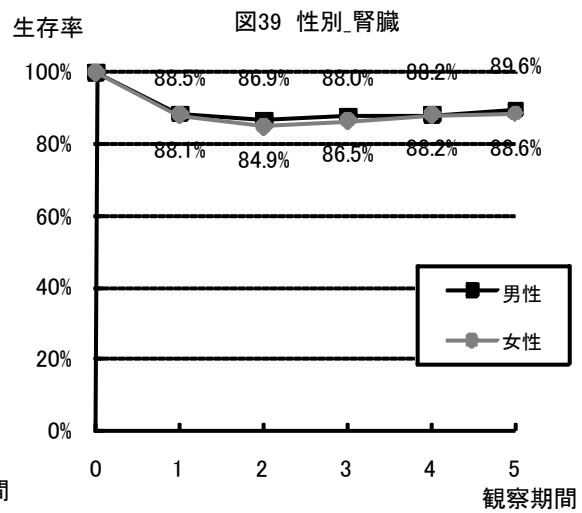
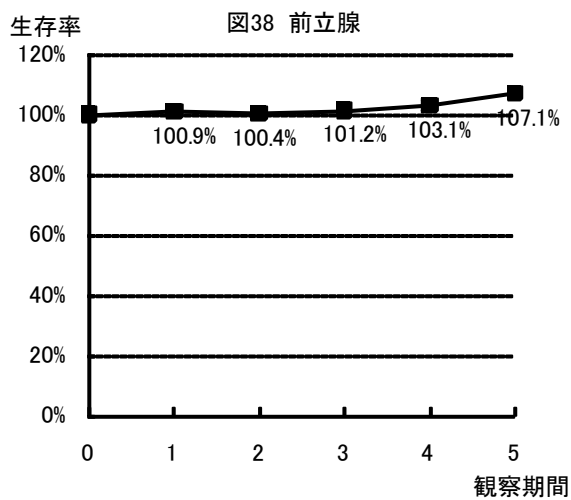
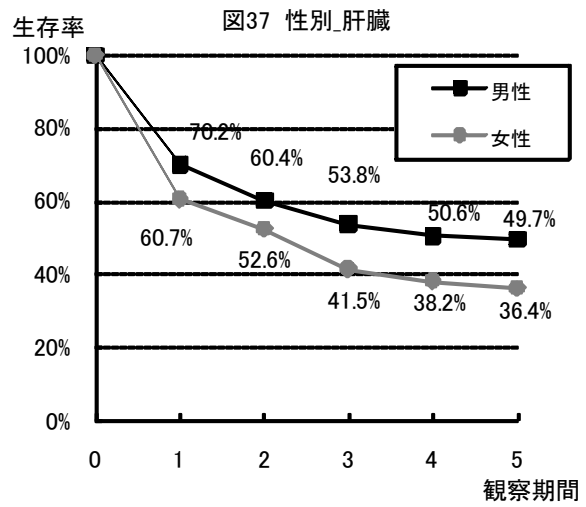
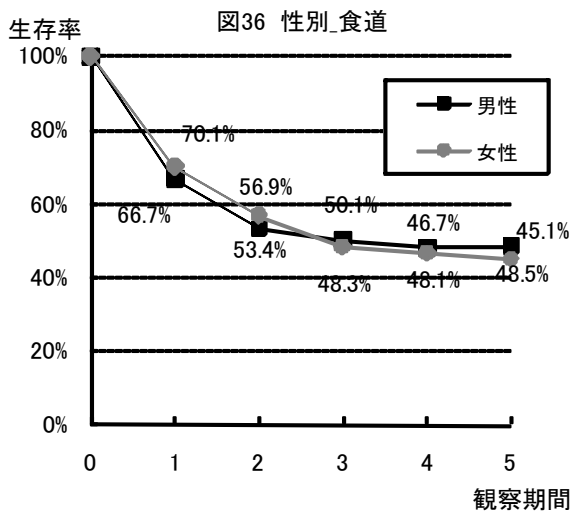
9 部位について性別の 5 年相対生存率を示し、うち胃、大腸、肺、乳房、子宮の 5 部位に関しては検診・非検診群別の生存率も示した（図 26～39）。

男女別にみると、胃と大腸、肝臓、腎臓では男の方が 5 年相対生存率は高く、肺については女の方が高くなっている。

検診・非検診における 5 年相対生存率は、検診群の方が胃で 31.6%、大腸で 27.4%、子宮で 14.3%、乳房で 13.3%、肺で 7.1%高くなっている。







【参 考】 部位別 5 年実測生存率を示した。

2011年 部位別実測生存率(性別)							
		(単位:%)					
部位・性別		生存年数	1年	2年	3年	4年	5年
食道	男		64.8	50.6	46.4	43.3	42.5
	女		68.2	54.5	45.5	43.2	40.9
胃	男		76.7	68.8	63.8	61.3	60.1
	女		71.0	62.8	60.3	58.0	57.3
大腸	男		86.4	77.9	71.1	68.6	66.9
	女		82.6	73.1	67.3	64.3	63.4
肝臓	男		67.7	56.5	48.8	44.5	42.4
	女		58.4	49.1	37.6	33.6	31.0
乳	女		96.4	93.1	90.9	89.6	89.3
子宮	女		91.5	86.1	83.4	82.4	81.4
肺	男		57.2	40.6	32.9	29.8	29.4
	女		70.8	59.7	54.2	51.0	50.1
前立腺	男		97.3	93.4	90.5	88.5	87.9
腎臓	男		86.4	83.1	82.2	80.5	79.7
	女		86.2	81.5	81.5	81.5	80.0

2011年 検診群部位別実測生存率(検診・非検診別)							
		(単位:%)					
部位・検診群		生存年数	1年	2年	3年	4年	5年
胃	検診群		94.6	91.9	90.1	89.2	88.3
	非検診群		73.5	65.1	60.8	58.2	57.1
大腸	検診群		98.3	97.4	93.2	90.6	89.7
	非検診群		83.6	73.9	67.4	64.7	63.3
肺	検診群		68.1	56.0	49.5	44.0	42.9
	非検診群		61.0	46.0	39.0	36.0	35.4
乳	検診群		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	非検診群		95.5	91.7	89.1	87.5	87.1
子宮	検診群		100.0	100.0	100.0	100.0	96.2
	非検診群		90.7	84.8	81.8	80.7	79.9